

令和6年2月26日
北九州市環境局
広報室

報道機関各位

「北九州市の生物多様性について」の調査を行いました
～令和5年度第7回市政モニターアンケート～

1 調査案件

第7回「北九州市の生物多様性について」
(環境局環境監視課)

2 公表資料

第7回「北九州市の生物多様性について」
(環境局環境監視課)
⇒ 結果概要及び調査報告書(別添のとおり)

3 参考資料

「市政モニター制度」について(別添のとおり)

【問い合わせ先】

■ 調査案件の内容について

《第7回》「北九州市の生物多様性について」
環境局環境監視課

093-582-2239 西田・新谷

■ 市政モニター制度について

広報室広聴課

093-582-2527 中野・相良

市政モニターに関すること 広報室広聴課 担当:中野、相良 TEL:582-2527	アンケート内容に関すること 環境局環境監視課 担当:西田、新谷 TEL:582-2239
--	---

令和6年2月26日

令和5年度 第7回市政モニターアンケート
「北九州市の生物多様性について」
結果概要

本市は現在、平成27年度に策定した「第2次北九州市生物多様性戦略」のもと、「都市と自然との共生 ～豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち～」の基本理念を実現するため、様々な取組を進めている。

本アンケートは、令和6年度で計画終了となる「第2次北九州市生物多様性戦略」の改訂に向けて、本市の自然環境や生態系の保全に関して市民の皆さんのご意見をいただくため、実施したものである。

I 調査概要

調査対象者 市政モニター150人(うち、回答者139人 回収率92.7%)

調査実施日 令和5年11月8日～令和5年11月22日

実施方法 調査票による郵送及びインターネット調査

II 調査結果概要

1 北九州市の自然環境

市民の約9割が自然に対する関心があると回答した。本市の自然とって思い浮かぶ場所として、全世代に共通して「平尾台」と「皿倉山」を挙げる人が多かった。

- 自然に対して関心が「ある」は89.9%、「ない」は1.4%、「どちらでもない」は8.6%となっている。
- 本市の自然として思い浮かぶ場所として、「平尾台」が85.6%、「皿倉山」が69.1%、「山田緑地」が41.7%となっている。

2 生物多様性とその保全

生物多様性の認知度は、言葉と意味を知っている人が約3割、言葉は知っているが意味は知らない人が約4割、言葉も意味も知らない人が約3割であった。生物多様性の重要性について知っているとは約8割であり、特に50歳代以上の人は意識が向いている。

- 「言葉も意味も知っている」が28.8%、「言葉は知っているが意味は知らない」が41.0%、「言葉も意味も知らない」が30.2%であった。
- 「言葉も意味も知らない」は、30歳代が30.0%、40歳代が38.1%、50歳代が37.5%であった。
- 生物多様性という言葉を知っている市民のうち、生物多様性の重要性を「知っている」と答えた人は77.5%であった。年代別では、50歳代(83.3%)、60歳代(88.9%)、70歳以上(83.3%)であった。

3 第2次北九州生物多様性戦略

第2次北九州生物多様性戦略を「知っている」市民は1割未満で、全世代にわたって共通していた。この戦略を知っている人は、その内容もある程度知っていた。

- 本市の生物多様性戦略を「知っている」は6.5%、「知らない」は93.5%であった。
- 本市の生物多様性戦略を知っている市民のうち、その内容について「ある程度知っている」市民は100%であった。

4 北九州市の自然環境保全の取組

本市での自然環境の保全に関する取組を、「知らない」とする市民は約4割であった。自然環境に関する取組の情報は、「市政だより」で知ったとする人が約7割、テレビやホームページ等より多かった。

- 本市の自然環境の保全に関する取組を「知らない」が39.6%、知っている取組として「平尾台ツアーやカブトガニ産卵観察ツアーなどの自然体感事業」が34.5%、「曽根干潟などの自然環境調査」が33.8%であった。
- 「市政だより」で知った市民は69.0%、「テレビ」は36.9%、「本市HP」と「インターネット」はそれぞれ20.2%であった。

5 響灘ビオトープ

響灘ビオトープを「知っている」市民は約6割であった。その情報源は「テレビ」や「本市ホームページ」、「新聞」などで、世代により情報を得るメディアが異なる傾向もあった。

- 響灘ビオトープを「知っている」が56.8%、「知らない」が43.2%であった。
- 「テレビ」で知った市民が32.9%、「本市HP」が30.4%、「新聞」が29.1%であった。60歳代は「本市HP」が50.0%、50歳代は「新聞」が45.5%、70歳代以上は「テレビ」が46.2%と高かった。

6 希少生物の保護・保全及び特定外来生物

本市の希少生物である「カブトガニ(剣尾類)」は、市民の7割が知っていた。その他の希少生物は2割以下であり、カブトガニに比べると認知度は高くなかった。本市で生息が確認された特定外来生物の「ヒアリ(昆虫類)」と「アメリカザリガニ(甲殻類)」は市民の7割が、「セアカゴケグモ(クモ・サソリ類)」と「ウシガエル(両生類)」も市民の5割が知っていた。

- 知っている本市の希少生物は、「カブトガニ(剣尾類)」が70.5%、「ズグロカモメ(鳥類)」が16.5%、「ベッコウトンボ(昆虫類)」が13.7%、「チュウヒ(鳥類)」が5.0%、「ガシャモク(植物)」は2.2%であった。
- 知っている本市の特定外来生物は、「ヒアリ(昆虫類)」が69.1%、「アメリカザリガニ(甲殻類)」が68.3%、「セアカゴケグモ(クモ・サソリ類)」が54.0%、「ウシガエル(両生類)」が48.9%であった。

令和5年度
第7回市政モニターアンケート

「北九州市の生物多様性について」

北九州市広報室広聴課

目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
1 北九州市の自然環境	2
2 生物多様性と保全	7
3 第2次北九州市生物多様性戦略	17
4 北九州市の自然環境保全の取組	21
5 響灘ビオトープ	26
6 希少生物の保護・保全及び特定外来生物	32
7 北九州市の自然環境に関する取組に対するご意見等	39
IV全体考察	45

I 調査の概要

調査対象者 市政モニター150人
 回答者数 139人(回収率92.7%)
 調査実施日 令和5年11月8日～令和5年11月22日
 実施方法 調査票による郵送及びインターネット調査
 調査実施課 広報室広聴課 TEL582-2527
 調査依頼課 環境局環境監視課 TEL582-2239

II 市政モニターの構成

R5.11.8

区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	150 (100.0%)	68 (45.3%)	82 (54.7%)	区 別			
10歳代	2 (1.3%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	門司区	16 (10.7%)	8 (5.3%)	8 (5.3%)
20歳代	18 (12.0%)	7 (4.7%)	11 (7.3%)	小倉北区	35 (23.3%)	15 (10.0%)	20 (13.3%)
30歳代	20 (13.3%)	10 (6.7%)	10 (6.7%)	小倉南区	26 (17.3%)	10 (6.7%)	16 (10.7%)
40歳代	24 (16.0%)	11 (7.3%)	13 (8.7%)	若松区	8 (5.3%)	1 (0.7%)	7 (4.7%)
50歳代	24 (16.0%)	11 (7.3%)	13 (8.7%)	八幡東区	11 (7.3%)	6 (4.0%)	5 (3.3%)
60歳代	22 (14.7%)	11 (7.3%)	11 (7.3%)	八幡西区	44 (29.3%)	23 (15.3%)	21 (14.0%)
70歳以上	40 (26.7%)	17 (11.3%)	23 (15.3%)	戸畑区	10 (6.7%)	5 (3.3%)	5 (3.3%)

※モニター総数150名のうち郵送モニター27名、ネットモニター123名

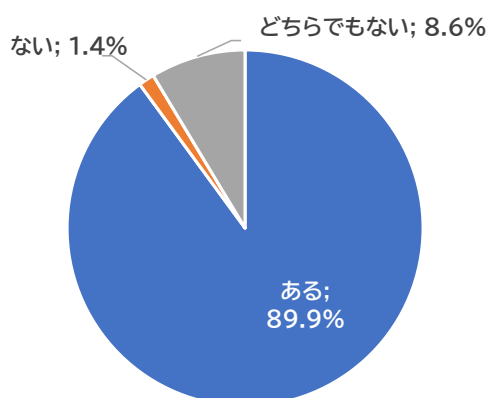
※数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は、一致しない場合があります。

Ⅲ 調査結果

1 北九州市の自然環境

本市は、三方を響灘、関門海峡、周防灘と特徴の異なる海に囲まれ、市域の約4割を森林が占めるなど、工業都市、産業都市でありながら豊かな自然に恵まれています。そこで、自然についてお尋ねします。

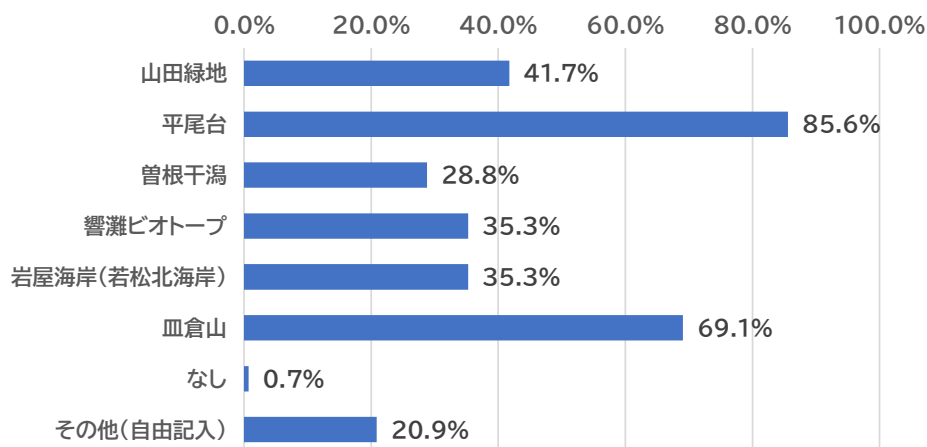
問1-1 あなたは自然に対して、関心がありますか。



		回答者数	ある	ない	どちらでもない
全体		139	89.9%	1.4%	8.6%
性別	男性	62	85.5%	3.2%	11.3%
	女性	77	93.5%	0.0%	6.5%
年齢別	20歳代以下	15	86.7%	6.7%	6.7%
	30歳代	20	80.0%	5.0%	15.0%
	40歳代	21	90.5%	0.0%	9.5%
	50歳代	24	87.5%	0.0%	12.5%
	60歳代	21	90.5%	0.0%	9.5%
	70歳代以上	38	97.4%	0.0%	2.6%
区別	門司区	15	100.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	33	87.9%	6.1%	6.1%
	小倉南区	25	88.0%	0.0%	12.0%
	若松区	8	87.5%	0.0%	12.5%
	八幡東区	10	100.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	38	89.5%	0.0%	10.5%
	戸畑区	10	80.0%	0.0%	20.0%

自然に対する関心が「ある」と答えた人が 89.9%であり、「どちらでもない」と答えた人は 8.6%、「ない」と答えた人は 1.4%であった。

問1-2 本市の自然という、こういった場所を思い浮かべますか。(複数回答可)



		回答者数	山田緑地	平尾台	曽根干潟	響灘ビオトープ	岩屋海岸(若松北海岸)	皿倉山	なし	その他(自由記入)
全体		139	41.7%	85.6%	28.8%	35.3%	35.3%	69.1%	0.7%	20.9%
性別	男性	62	35.5%	87.1%	29.0%	25.8%	35.5%	58.1%	1.6%	27.4%
	女性	77	46.8%	84.4%	28.6%	42.9%	35.1%	77.9%	0.0%	15.6%
年齢別	20歳代以下	15	33.3%	93.3%	13.3%	33.3%	13.3%	66.7%	0.0%	26.7%
	30歳代	20	50.0%	90.0%	20.0%	25.0%	30.0%	60.0%	0.0%	15.0%
	40歳代	21	33.3%	85.7%	23.8%	38.1%	28.6%	61.9%	0.0%	28.6%
	50歳代	24	41.7%	83.3%	25.0%	33.3%	37.5%	62.5%	0.0%	12.5%
	60歳代	21	47.6%	85.7%	28.6%	28.6%	42.9%	76.2%	0.0%	33.3%
	70歳代以上	38	42.1%	81.6%	44.7%	44.7%	44.7%	78.9%	2.6%	15.8%
区別	門司区	15	33.3%	86.7%	26.7%	20.0%	33.3%	60.0%	0.0%	46.7%
	小倉北区	33	51.5%	87.9%	30.3%	39.4%	33.3%	63.6%	0.0%	18.2%
	小倉南区	25	44.0%	88.0%	56.0%	28.0%	24.0%	48.0%	0.0%	4.0%
	若松区	8	37.5%	87.5%	25.0%	50.0%	75.0%	87.5%	0.0%	25.0%
	八幡東区	10	30.0%	80.0%	0.0%	20.0%	10.0%	90.0%	10.0%	30.0%
	八幡西区	38	34.2%	84.2%	21.1%	44.7%	50.0%	76.3%	0.0%	18.4%
	戸畑区	10	60.0%	80.0%	20.0%	30.0%	10.0%	90.0%	0.0%	30.0%

本市の自然として思い浮かぶ場所は、「平尾台」と答えた人が85.6%と最も多かった。次いで「皿倉山(69.1%)」、「山田緑地(41.7%)」という結果であった。「平尾台」や「皿倉山」と答えた人は全世代で多く、幅広い世代に北九州市の自然として認識されている。「曽根干潟」や「岩屋海岸」と答えた人は、世代が若くなるにつれて少なくなる傾向にあった。「平尾台」や「皿倉山」以外の回答は、居住区に近い場所の回答が多くなる傾向にあった。

【参考】自由記入の主な回答

<緑地・公園・自然観察施設>

グリーンパーク(10)、白野江植物公園(5)、瀬板の森(2)、到津の森公園(2)、
和布刈公園(2)、農事センター、水環境館

<海・海岸・島>

関門海峡(5)、洞海湾(2)、響灘、青浜海岸線、藍ノ島

<川・滝>

紫川(4)、菅生の滝(3)、板櫃川

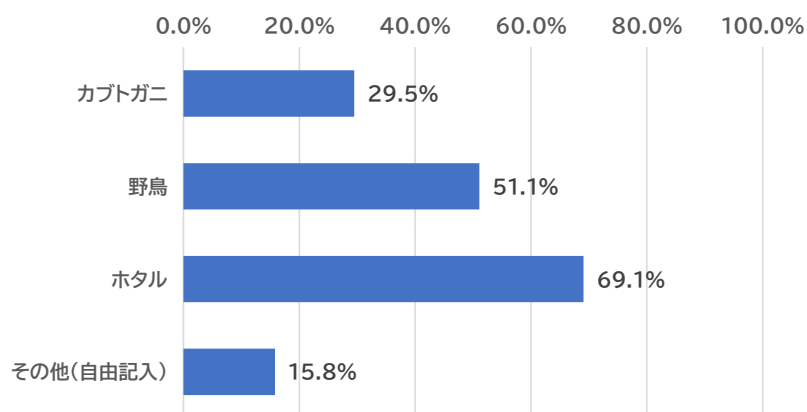
<貯水池・池>

河内貯水池(4)、頓田貯水池、白岩釣堀、畑貯水池

<山>

高塔山・高塔山近辺(3)、足立山、風師山

問1-3 本市の自然というと、どのような生き物を思い浮かべますか。(複数回答可)



		回答者数	カブトガニ	野鳥	ホタル	その他 (自由記入)
全体		139	29.5%	51.1%	69.1%	15.8%
性別	男性	62	30.6%	50.0%	56.5%	24.2%
	女性	77	28.6%	51.9%	79.2%	9.1%
年齢別	20歳代以下	15	13.3%	33.3%	73.3%	6.7%
	30歳代	20	15.0%	35.0%	60.0%	20.0%
	40歳代	21	42.9%	47.6%	71.4%	9.5%
	50歳代	24	25.0%	37.5%	75.0%	16.7%
	60歳代	21	23.8%	71.4%	57.1%	9.5%
	70歳代以上	38	42.1%	65.8%	73.7%	23.7%
区別	門司区	15	40.0%	60.0%	40.0%	13.3%
	小倉北区	33	24.2%	51.5%	72.7%	18.2%
	小倉南区	25	56.0%	44.0%	72.0%	12.0%
	若松区	8	37.5%	75.0%	62.5%	25.0%
	八幡東区	10	10.0%	40.0%	70.0%	50.0%
	八幡西区	38	21.1%	52.6%	73.7%	7.9%
	戸畑区	10	10.0%	40.0%	80.0%	10.0%

本市の自然という思い浮かべる生きものは「ホタル」が69.1%で最も多かった。次いで、「野鳥(51.1%)」、「カブトガニ(29.5%)」という結果であった。「ホタル」は全世代で回答する人が多く、40歳代と70歳代以上は他の世代より「ホタル」以外の生きものも多く認識されていた。

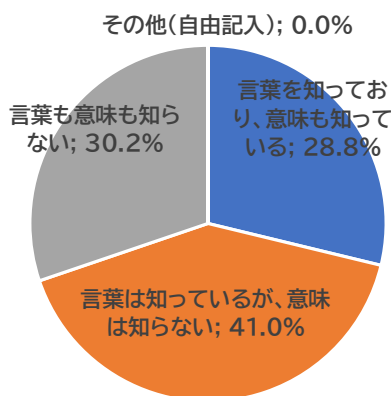
問1-4 本市の自然というと、場所・生き物のほかに何を思い浮かべますか。(自由回答) ※主な回答を抜粋

<p><自然、生き物></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 山(皿倉山系、高塔山、足立山、安部山、金毘羅山) ● 川(紫川、大蔵川、天籟寺川、板櫃川) ● 海 ● 水 ● 滝 ● 海岸・海岸線 ● 森 ● 関門海峡 ● 平尾台 ● 鍾乳洞 ● 貯水池 ● 関門橋 ● 桜 ● コスモス ● 河内の藤園 ● 草花 ● 樹木 ● 植物 ● 紅葉 ● カブトガニ ● 鳥 ● カラス ● 空気のきれいさ ● 年間のおだやかな天候 ● 災害(地震、津波、火山) ● 気候変動 ● <p><食べ物・特産品・自然の恵み></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食べ物がおいしい ● 合馬のたけのこ ● タケノコ ● 野菜 ● 若松野菜 ● 農産物、水産物 ● 干物、関門タコ、バナナ ● 魚 ● フグ料理 	<p><緑地・公園・自然観察施設、自然を楽しむ活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公園 ● 響灘緑地・グリーンパーク ● 安部山公園 ● 長野緑地 ● 総合体育館 ● 八幡の瀬板の森 ● 青少年自然の家 ● 水環境館 ● 到津の森公園 ● いのちのたび博物館 ● 門司港レトロ ● 若戸大橋 ● 小倉城 ● 田畑 ● 緑地 ● 登山 ● キャンプ ● 保護活動や自然を楽しむウォーキングなどのイベント ● 遊び場 ● ガーデニング <p><歴史・文化・風土・風習></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 神事 ● 祭事 ● 各所の風土 ● 古代を含めた歴史遺跡 ● ふるまい ● 言葉(北九州弁) <p><都市や地域の印象></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海岸線と山並みが調和している自然環境 ● 環境を意識したまちづくり ● 自然もあり都会的などともあり住みやすい街 ● 公害を克服し自然を手に入れたこと ● 海沿いはほとんど工業地帯で海は近いけれど身近にふれあえない印象
---	---

2 生物多様性と保全

生物多様性とは、「生物の多様性に関する条約」において、「すべての生物の間に違いがあること」と定義されています。そこで、生物多様性についてお尋ねします。

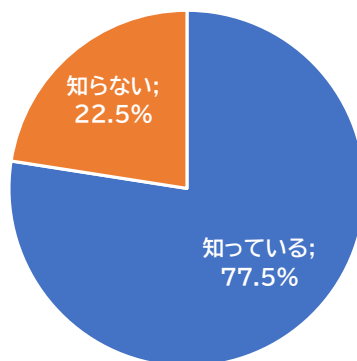
問2-1 「生物多様性」という言葉や意味を知っていますか。



		回答者数	言葉を知っており、意味も知っている	言葉は知っているが、意味は知らない	言葉も意味も知らない	その他(自由記入)
全体		139	28.8%	41.0%	30.2%	0.0%
性別	男性	62	32.3%	40.3%	27.4%	0.0%
	女性	77	26.0%	41.6%	32.5%	0.0%
年齢別	20歳代以下	15	33.3%	40.0%	26.7%	0.0%
	30歳代	20	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%
	40歳代	21	14.3%	47.6%	38.1%	0.0%
	50歳代	24	20.8%	41.7%	37.5%	0.0%
	60歳代	21	42.9%	23.8%	33.3%	0.0%
	70歳代以上	38	36.8%	42.1%	21.1%	0.0%
区別	門司区	15	13.3%	66.7%	20.0%	0.0%
	小倉北区	33	33.3%	36.4%	30.3%	0.0%
	小倉南区	25	36.0%	16.0%	48.0%	0.0%
	若松区	8	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	10	10.0%	70.0%	20.0%	0.0%
	八幡西区	38	31.6%	42.1%	26.3%	0.0%
	戸畑区	10	10.0%	60.0%	30.0%	0.0%

「生物多様性」という言葉や意味については、「言葉を知っており、意味も知っている」と回答した人が28.8%、「言葉は知っているが、意味は知らない」と答えた人が41.0%であり、言葉を知っていると答えた人が合わせて69.8%であった。20歳代以下、60歳代、70歳代以上は「言葉を知っており、意味も知っている」と答えた人の割合が「言葉も意味も知らない」と答えた人より多いが、30歳代～50歳代の世代では少なくなっている。

問2-2 問2-1で「3 言葉も意味も知らない」以外を選択した方にお尋ねします。
 生物多様性の重要性を知っていますか。

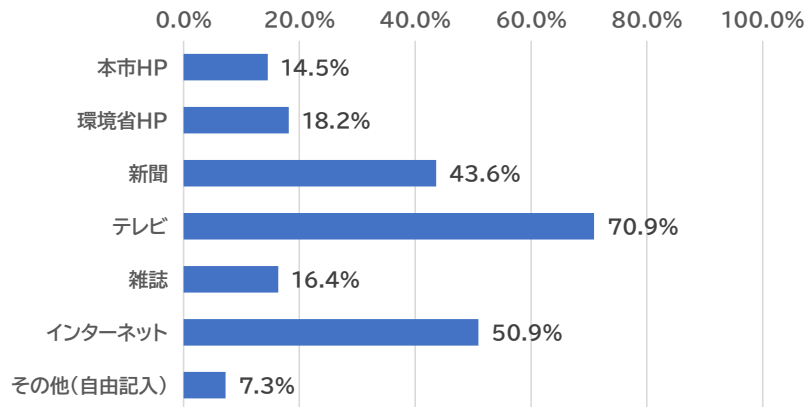


		回答者数	知っている	知らない
全体		71	77.5%	22.5%
性別	男性	34	85.3%	14.7%
	女性	37	70.3%	29.7%
年齢別	20歳代以下	6	66.7%	33.3%
	30歳代	10	70.0%	30.0%
	40歳代	10	60.0%	40.0%
	50歳代	12	83.3%	16.7%
	60歳代	9	88.9%	11.1%
	70歳代以上	24	83.3%	16.7%
区別	門司区	8	75.0%	25.0%
	小倉北区	16	62.5%	37.5%
	小倉南区	7	71.4%	28.6%
	若松区	4	75.0%	25.0%
	八幡東区	7	100.0%	0.0%
	八幡西区	22	86.4%	13.6%
	戸畑区	7	71.4%	28.6%

生物多様性の重要性を「知っている」と答えた人は77.5%であった。年齢別では50歳代(83.3%)、60歳代(88.9%)、70歳代以上(83.3%)で知っている人が多く、40歳代(60.0%)は最も少ない結果となった。

問2-3 問2-2で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。

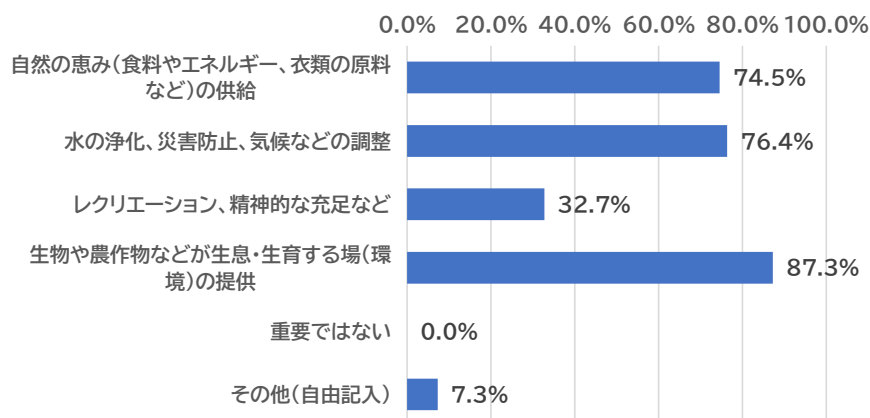
生物多様性の重要性を、どのように知りましたか。(複数回答可)



		回答者数	本市HP	環境省HP	新聞	テレビ	雑誌	インターネット	その他(自由記入)
全体		55	14.5%	18.2%	43.6%	70.9%	16.4%	50.9%	7.3%
性別	男性	29	20.7%	20.7%	34.5%	62.1%	10.3%	55.2%	13.8%
	女性	26	7.7%	15.4%	53.8%	80.8%	23.1%	46.2%	0.0%
年齢別	20歳代以下	4	25.0%	25.0%	25.0%	75.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	30歳代	7	0.0%	14.3%	42.9%	71.4%	14.3%	71.4%	0.0%
	40歳代	6	50.0%	50.0%	33.3%	83.3%	16.7%	100.0%	0.0%
	50歳代	10	10.0%	10.0%	40.0%	50.0%	10.0%	50.0%	20.0%
	60歳代	8	0.0%	0.0%	37.5%	75.0%	25.0%	37.5%	0.0%
	70歳代以上	20	15.0%	20.0%	55.0%	75.0%	20.0%	35.0%	10.0%
区別	門司区	6	16.7%	16.7%	50.0%	83.3%	0.0%	33.3%	0.0%
	小倉北区	10	20.0%	30.0%	50.0%	80.0%	20.0%	60.0%	0.0%
	小倉南区	5	40.0%	40.0%	40.0%	80.0%	40.0%	40.0%	20.0%
	若松区	3	0.0%	0.0%	66.7%	100.0%	33.3%	33.3%	0.0%
	八幡東区	7	14.3%	28.6%	71.4%	71.4%	28.6%	57.1%	14.3%
	八幡西区	19	10.5%	5.3%	26.3%	57.9%	10.5%	52.6%	10.5%
	戸畑区	5	0.0%	20.0%	40.0%	60.0%	0.0%	60.0%	0.0%

生物多様性の重要性を「テレビ」で知ったと答えた人が70.9%と最も多く、次いで「インターネット(50.9%)」、「新聞(43.6%)」という結果であり、「本市HP(14.5%)」や「環境省HP(18.2%)」と回答する人は少ない結果となった。年齢別では、30歳代と40歳代は「インターネット」で知った人が多く、40歳代は「本市HP(50.0%)」や「環境省HP(50.0%)」で知った人も多かった。50歳代と60歳代は「インターネット」や「本市HP」、「環境省HP」から知った人は少なかった。

問2-4 問2-2で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。
 生物多様性の重要性は、何だと思えますか。(複数回答可)

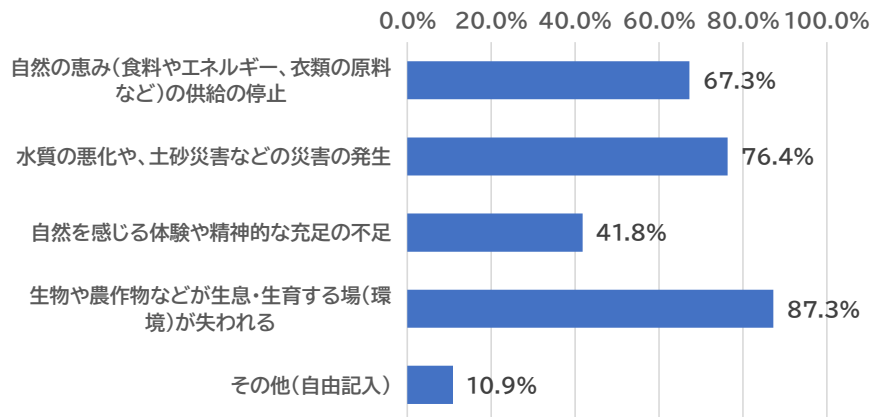


		回答者数	自然の恵み(食料やエネルギー、衣類の原料などの供給)	水の浄化、災害防止、気候などの調整	レクリエーション、精神的な充足など	生物や農作物などが生息・生育する場(環境)の提供	重要ではない	その他(自由記入)
全体		55	74.5%	76.4%	32.7%	87.3%	0.0%	7.3%
性別	男性	28	75.0%	78.6%	32.1%	82.1%	0.0%	10.7%
	女性	27	74.1%	74.1%	33.3%	92.6%	0.0%	3.7%
年齢別	20歳代以下	4	75.0%	75.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	7	71.4%	71.4%	14.3%	71.4%	0.0%	0.0%
	40歳代	6	83.3%	83.3%	33.3%	100.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	10	70.0%	70.0%	20.0%	90.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	7	42.9%	42.9%	14.3%	71.4%	0.0%	28.6%
	70歳代以上	21	85.7%	90.5%	52.4%	95.2%	0.0%	9.5%
区別	門司区	6	100.0%	83.3%	33.3%	100.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	10	60.0%	80.0%	30.0%	80.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	5	100.0%	100.0%	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%
	若松区	2	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	8	75.0%	87.5%	37.5%	87.5%	0.0%	37.5%
	八幡西区	19	68.4%	63.2%	31.6%	89.5%	0.0%	5.3%
	戸畑区	5	80.0%	60.0%	40.0%	80.0%	0.0%	0.0%

生物多様性の重要性を「生物や農作物などが生息・生育する場(環境)の提供」と答える人が87.3%と最も多く、「水の浄化、災害防止、気候などの調整(76.4%)」、「自然の恵み(食料やエネルギー、衣類の原料などの供給(74.5%))」が続いた。年齢別では、60歳代が「自然の恵みの供給」や「水の浄化、災害防止、気候などの調整」で42.9%(同率)と、答える人が他の世代より少ない傾向であった。

問2-5 問2-2で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。

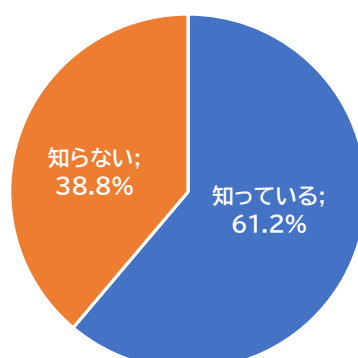
生物多様性が失われると、何が起こると思いますか。(複数回答可)



		回答者数	自然の恵み(食料やエネルギー、衣類の原料など)の供給の停止	水質の悪化や、土砂災害などの災害の発生	自然を感じる体験や精神的な充足の不足	生物や農作物などが生息・生育する場(環境)が失われる	その他(自由記入)
全体		55	67.3%	76.4%	41.8%	87.3%	10.9%
性別	男性	28	64.3%	82.1%	39.3%	82.1%	14.3%
	女性	27	70.4%	70.4%	44.4%	92.6%	7.4%
年齢別	20歳代以下	4	75.0%	75.0%	50.0%	100.0%	0.0%
	30歳代	7	57.1%	100.0%	28.6%	71.4%	0.0%
	40歳代	6	83.3%	83.3%	50.0%	83.3%	0.0%
	50歳代	10	70.0%	60.0%	20.0%	90.0%	0.0%
	60歳代	7	57.1%	28.6%	14.3%	71.4%	28.6%
	70歳代以上	21	66.7%	90.5%	61.9%	95.2%	19.0%
区別	門司区	6	100.0%	83.3%	33.3%	100.0%	0.0%
	小倉北区	10	60.0%	80.0%	70.0%	90.0%	10.0%
	小倉南区	5	60.0%	80.0%	40.0%	80.0%	0.0%
	若松区	2	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	八幡東区	8	37.5%	87.5%	50.0%	87.5%	50.0%
	八幡西区	19	78.9%	68.4%	26.3%	84.2%	5.3%
	戸畑区	5	60.0%	60.0%	20.0%	80.0%	0.0%

生物多様性が失われると「生物や農作物などが生息・生育する場(環境)が失われる」と答えた人が87.3%と最も多く、次いで「水質の悪化や、土砂災害などの災害の発生(76.4%)」、「自然の恵み(食料やエネルギー、衣類の原料など)の供給の停止(67.3%)」という結果となった。年齢別では、30歳代、40歳代は「水質の悪化や、土砂災害などの災害の発生」と答えた人が多く、20歳代以下と50歳代は「生物や農作物などが生息・生育する場(環境)が失われる」と回答した人が多かった。70歳代以上はどちらの回答も多かった。

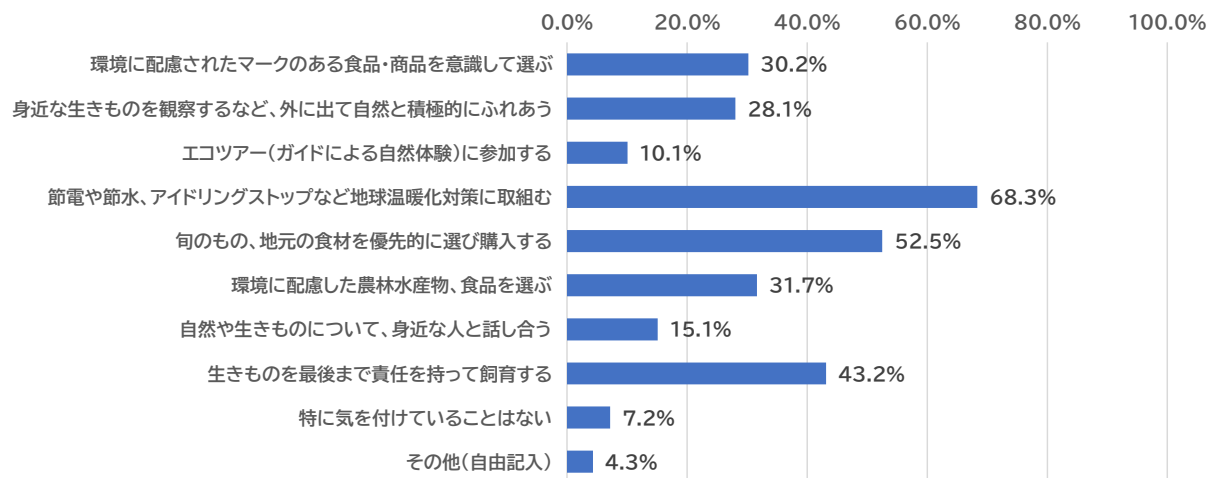
問2-6 生産(農林水産業、工業生産等)と消費が生物多様性に影響を与えることを知っていますか。



		回答者数	知っている	知らない
全体		139	61.2%	38.8%
性別	男性	62	66.1%	33.9%
	女性	77	57.1%	42.9%
年齢別	20歳代以下	15	53.3%	46.7%
	30歳代	20	55.0%	45.0%
	40歳代	21	61.9%	38.1%
	50歳代	24	54.2%	45.8%
	60歳代	21	57.1%	42.9%
	70歳代以上	38	73.7%	26.3%
区別	門司区	15	66.7%	33.3%
	小倉北区	33	54.5%	45.5%
	小倉南区	25	48.0%	52.0%
	若松区	8	50.0%	50.0%
	八幡東区	10	90.0%	10.0%
	八幡西区	38	68.4%	31.6%
	戸畑区	10	60.0%	40.0%

生産(農林水産業、工業生産等)と消費が生物多様性に影響を与えることを「知っている」と答えた人は61.2%であった。年齢別では70歳代以上の「知っている(73.7%)」と答えた人が最も多かった。「知らない」と回答した人が多かったのは、20歳代以下(46.7%)、50歳代(45.8%)、30歳代(45.0%)の順であった。

問2-7 生物多様性の保全につながる行動として、日常的にどのようなことに気を付けていますか。(複数回答可)



生物多様性の保全につながる日常的な行動として、「節電や節水、アイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む」と答えた人が68.3%と最も多かった。次いで「旬のもの、地元の食材を優先的に選び購入する(52.5%)」、「生きものを最後まで責任を持って飼育する(43.2%)」という結果となった。年齢別では、20歳代以下が「環境に配慮されたマークのある食品・商品を意識して選ぶ(46.7%)」や「環境に配慮した農林水産物、食品を選ぶ(40.0%)」と答える人の割合が多く、70歳代以上は「生きものを最後まで責任を持って飼育する(36.8%)」以外の多くの行動において、他の世代より行っている人が多かった。

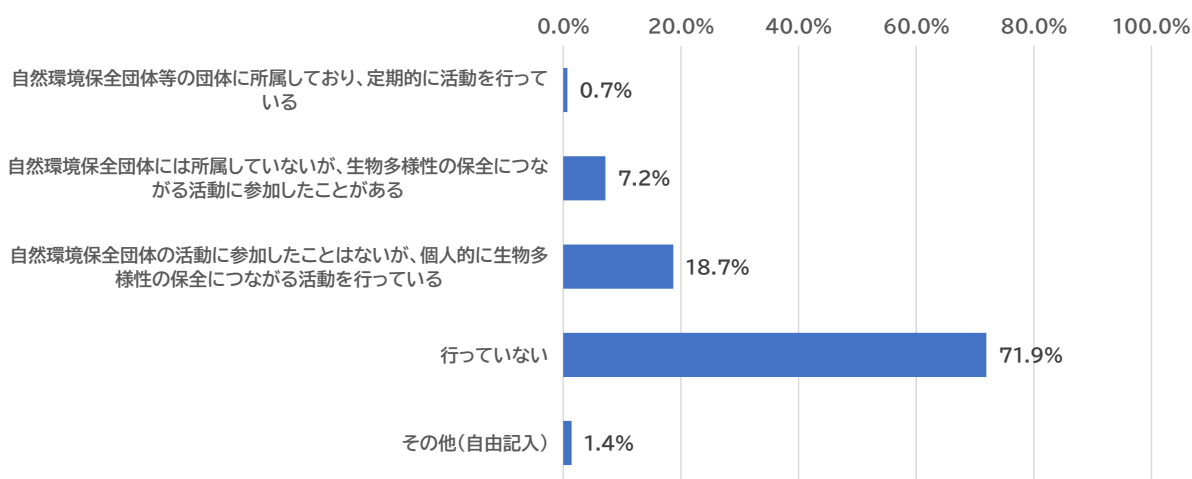
【参考】自由記入の主な回答

- ・ 企業の取組みに目を向ける。
- ・ 畑で農薬を使用しないで、たい肥を作って有機栽培をする。
- ・ プラスチックゴミを畑等から除去する。
- ・ 自家用車は持たず、自転車を利用する。
- ・ リユースやリサイクルにより、廃棄物の減少に努めている。

		回答者数	環境に配慮されたマークのある食品・商品を意識して選ぶ	身近な生きものを観察するなど、外に出て自然と積極的にふれあう	エコツアー(ガイドによる自然体験)に参加する	節電や節水、アイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む	旬のもの、地元の食材を優先的に選び購入する
全体		139	30.2%	28.1%	10.1%	68.3%	52.5%
性別	男性	62	21.0%	30.6%	4.8%	74.2%	41.9%
	女性	77	37.7%	26.0%	14.3%	63.6%	61.0%
年齢別	20歳代以下	15	46.7%	20.0%	6.7%	66.7%	46.7%
	30歳代	20	20.0%	25.0%	10.0%	65.0%	45.0%
	40歳代	21	23.8%	28.6%	14.3%	66.7%	42.9%
	50歳代	24	33.3%	25.0%	4.2%	62.5%	54.2%
	60歳代	21	9.5%	23.8%	4.8%	57.1%	57.1%
	70歳代以上	38	42.1%	36.8%	15.8%	81.6%	60.5%
区別	門司区	15	26.7%	20.0%	6.7%	80.0%	40.0%
	小倉北区	33	21.2%	27.3%	15.2%	69.7%	57.6%
	小倉南区	25	16.0%	28.0%	12.0%	68.0%	48.0%
	若松区	8	37.5%	50.0%	0.0%	75.0%	50.0%
	八幡東区	10	60.0%	20.0%	0.0%	70.0%	60.0%
	八幡西区	38	42.1%	26.3%	10.5%	65.8%	57.9%
	戸畑区	10	20.0%	40.0%	10.0%	50.0%	40.0%

		回答者数	環境に配慮した農林水産物、食品を選ぶ	自然や生きものについて、身近な人と話し合う	生きものを最後まで責任を持って飼育する	特に気を付けていることはない	その他(自由記入)
全体		139	31.7%	15.1%	43.2%	7.2%	4.3%
性別	男性	62	30.6%	19.4%	48.4%	8.1%	4.8%
	女性	77	32.5%	11.7%	39.0%	6.5%	3.9%
年齢別	20歳代以下	15	40.0%	6.7%	53.3%	13.3%	6.7%
	30歳代	20	40.0%	5.0%	40.0%	5.0%	10.0%
	40歳代	21	23.8%	19.0%	47.6%	4.8%	4.8%
	50歳代	24	29.2%	16.7%	50.0%	8.3%	0.0%
	60歳代	21	14.3%	9.5%	38.1%	9.5%	0.0%
	70歳代以上	38	39.5%	23.7%	36.8%	5.3%	5.3%
区別	門司区	15	40.0%	20.0%	33.3%	6.7%	0.0%
	小倉北区	33	15.2%	12.1%	48.5%	6.1%	3.0%
	小倉南区	25	24.0%	16.0%	36.0%	12.0%	0.0%
	若松区	8	37.5%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10	70.0%	30.0%	50.0%	0.0%	20.0%
	八幡西区	38	42.1%	18.4%	44.7%	7.9%	0.0%
	戸畑区	10	10.0%	0.0%	50.0%	10.0%	30.0%

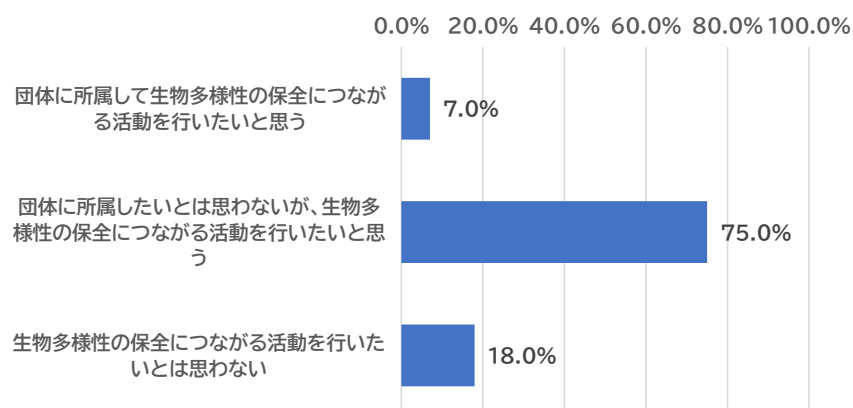
問2-8 生物多様性の保全につながる活動を行っていますか。



		回答者数	自然環境保全団体等の団体に所属しており、定期的に活動を行っている	自然環境保全団体には所属していないが、生物多様性の保全につながる活動に参加したことがある	自然環境保全団体の活動に参加したことはないが、個人的に生物多様性の保全につながる活動を行っている	行っていない	その他(自由記入)
全体		139	0.7%	7.2%	18.7%	71.9%	1.4%
性別	男性	62	0.0%	11.3%	19.4%	67.7%	1.6%
	女性	77	1.3%	3.9%	18.2%	75.3%	1.3%
年齢別	20歳代以下	15	0.0%	0.0%	20.0%	66.7%	13.3%
	30歳代	20	0.0%	5.0%	5.0%	90.0%	0.0%
	40歳代	21	0.0%	9.5%	19.0%	71.4%	0.0%
	50歳代	24	0.0%	8.3%	29.2%	62.5%	0.0%
	60歳代	21	0.0%	9.5%	14.3%	76.2%	0.0%
	70歳代以上	38	2.6%	7.9%	21.1%	68.4%	0.0%
区別	門司区	15	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%
	小倉北区	33	0.0%	3.0%	21.2%	75.8%	0.0%
	小倉南区	25	0.0%	12.0%	4.0%	84.0%	0.0%
	若松区	8	0.0%	12.5%	25.0%	62.5%	0.0%
	八幡東区	10	0.0%	10.0%	10.0%	80.0%	0.0%
	八幡西区	38	2.6%	10.5%	21.1%	63.2%	2.6%
	戸畑区	10	0.0%	0.0%	10.0%	80.0%	10.0%

生物多様性の保全につながる活動については、「行っていない」と回答した人が71.9%と最も多かった。次いで「自然環境保全団体の活動に参加したことはないが、個人的に生物多様性の保全につながる活動を行っている(18.7%)」、「自然環境保全団体には所属していないが、生物多様性の保全につながる活動に参加したことがある(7.2%)」、「自然環境保全団体等の団体に所属しており、定期的に活動を行っている(0.7%)」という結果となった。

問2-9 問2-8で「4 行っていない」を選択した方にお尋ねします。
 生物多様性の保全につながる活動を行いたいと思いますか。



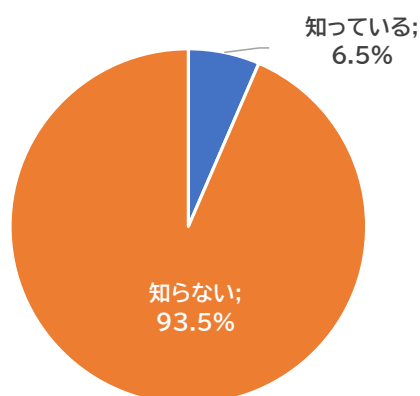
		回答者数	団体に所属して生物多様性の保全につながる活動を行いたいと思う	団体に所属したいとは思わないが、生物多様性の保全につながる活動を行いたいと思う	生物多様性の保全につながる活動を行いたいとは思わない
全体		100	7.0%	75.0%	18.0%
性別	男性	42	4.8%	76.2%	19.0%
	女性	58	8.6%	74.1%	17.2%
年齢別	20歳代以下	10	30.0%	60.0%	10.0%
	30歳代	18	11.1%	72.2%	16.7%
	40歳代	15	6.7%	73.3%	20.0%
	50歳代	15	0.0%	80.0%	20.0%
	60歳代	16	0.0%	75.0%	25.0%
	70歳代以上	26	3.8%	80.8%	15.4%
区別	門司区	9	0.0%	77.8%	22.2%
	小倉北区	25	12.0%	72.0%	16.0%
	小倉南区	21	14.3%	66.7%	19.0%
	若松区	5	0.0%	100.0%	0.0%
	八幡東区	8	0.0%	87.5%	12.5%
	八幡西区	24	4.2%	70.8%	25.0%
	戸畑区	8	0.0%	87.5%	12.5%

生物多様性の保全につながる活動を行っていない人の中で、「団体に所属したいとは思わないが、生物多様性の保全につながる活動を行いたいと思う」と答えた人が75.0%と最も多かった。次いで、「生物多様性の保全につながる活動を行いたいとは思わない」と答える人が18.0%という回答であった。年齢別では、「団体に所属して生物多様性の保全につながる活動を行いたいと思う」と答える人が、20歳代以下が30.0%、30歳代が11.1%であり、他の世代より多い傾向であった。

3 第2次北九州市生物多様性戦略

本市では、「北九州市生物多様性戦略」(平成22年11月策定)を改定する形で、生物多様性に関する国内外の動向も踏まえ、平成28年3月に、「第2次北九州市生物多様性戦略」を策定しています。

問3-1 本市の生物多様性戦略を知っていますか。

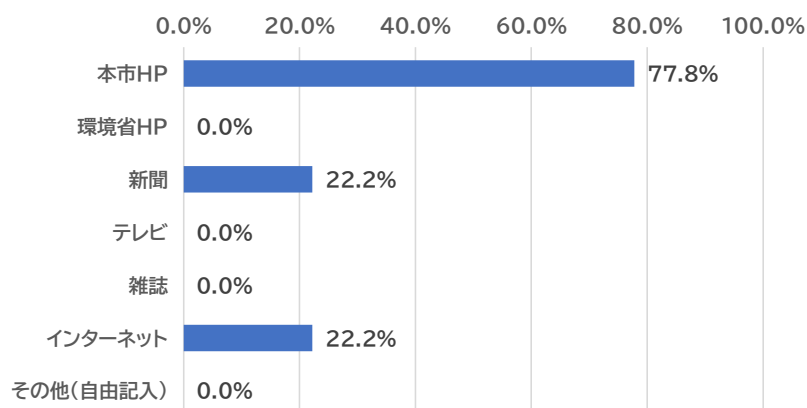


		回答者数	知っている	知らない
全体		139	6.5%	93.5%
性別	男性	62	11.3%	88.7%
	女性	77	2.6%	97.4%
年齢別	20歳代以下	15	6.7%	93.3%
	30歳代	20	5.0%	95.0%
	40歳代	21	9.5%	90.5%
	50歳代	24	4.2%	95.8%
	60歳代	21	4.8%	95.2%
	70歳代以上	38	7.9%	92.1%
区別	門司区	15	6.7%	93.3%
	小倉北区	33	6.1%	93.9%
	小倉南区	25	4.0%	96.0%
	若松区	8	0.0%	100.0%
	八幡東区	10	10.0%	90.0%
	八幡西区	38	7.9%	92.1%
	戸畑区	10	10.0%	90.0%

本市の生物多様性戦略を「知っている」と答えた人は6.5%であった。「知らない」と答えた人は全世代にわたり多いが、30歳代(95.0%)、50歳代(95.8%)、60歳代(95.2%)で多い傾向であった。

問3-2 問3-1で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。

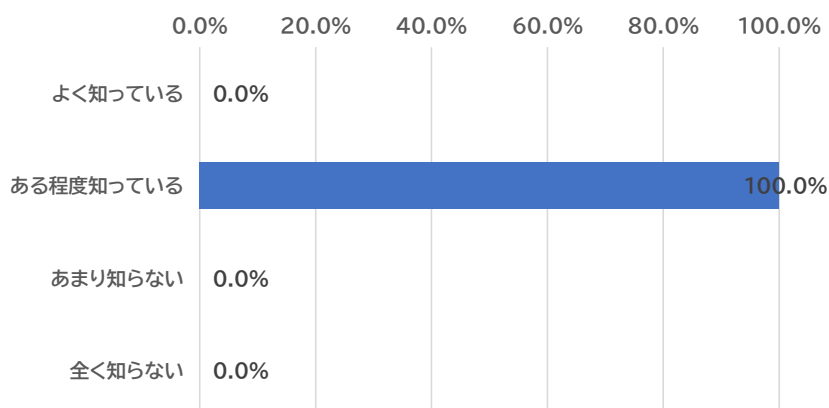
本市の生物多様性戦略をどのように知りましたか。(複数回答可)



		回答者数	本市HP	環境省HP	新聞	テレビ	雑誌	インターネット	その他(自由記入)
全体		9	77.8%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%
性別	男性	7	85.7%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%
	女性	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
年齢別	20歳代以下	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	30歳代	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	2	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳代以上	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
区別	門司区	1	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	小倉南区	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	0	-	-	-	-	-	-	-
	八幡東区	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

本市の生物多様性戦略を知っている人の中では、「本市HP」で知ったという回答が77.8%と最も多かった。次いで「新聞(22.2%)」と「インターネット(22.2%)」が同率であり、他の媒体の回答はなかった。年齢別では、30歳代～50歳代、70歳代以上は全員本市HP、20歳代以下はインターネット、60歳代は新聞で知ったとの回答であった。

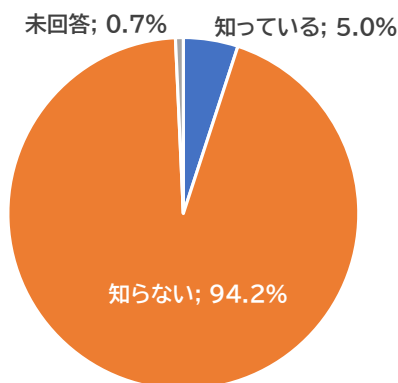
問3-3 問3-1で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。
本市の生物多様性戦略の内容を知っていますか。



		回答者数	よく知っている	ある程度知っている	あまり知らない	全く知らない
全体		9	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
性別	男性	7	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	女性	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
年齢別	20歳代以下	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	70歳代以上	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	若松区	0	-	-	-	-
	八幡東区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

本市の生物多様性戦略を知っている人で、全員がその内容を「ある程度知っている」と答え、「あまり知らない」、「全く知らない」と答えた人はいなかった。

問3-4 本市では、市民、NPO、団体、事業者及び行政で構成された「北九州市自然環境保全ネットワークの会(自然ネット)」が、本市生物多様性戦略の進捗管理のほか、イベント出展、会員同士の活動や情報交換等を通して、本市の自然環境の保全活動を推進しています。あなたは「自然環境保全ネットワークの会(自然ネット)」を知っていますか。



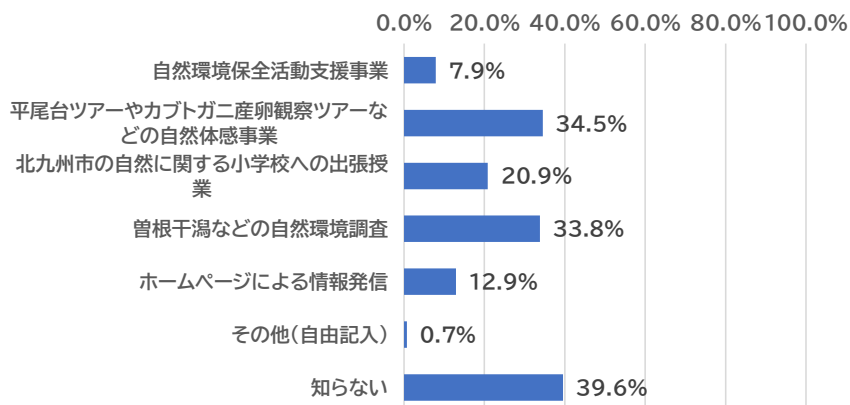
		回答者数	知っている	知らない	未回答
全体		139	5.0%	94.2%	0.7%
性別	男性	62	6.5%	93.5%	0.0%
	女性	77	3.9%	94.8%	1.3%
年齢別	20歳代以下	15	0.0%	100.0%	0.0%
	30歳代	20	5.0%	95.0%	0.0%
	40歳代	21	9.5%	90.5%	0.0%
	50歳代	24	8.3%	91.7%	0.0%
	60歳代	21	4.8%	95.2%	0.0%
	70歳代以上	38	2.6%	94.7%	2.6%
区別	門司区	15	0.0%	100.0%	0.0%
	小倉北区	33	3.0%	97.0%	0.0%
	小倉南区	25	12.0%	88.0%	0.0%
	若松区	8	0.0%	87.5%	12.5%
	八幡東区	10	10.0%	90.0%	0.0%
	八幡西区	38	5.3%	94.7%	0.0%
	戸畑区	10	0.0%	100.0%	0.0%

自然環境保全ネットワークの会(自然ネット)を「知っている」と答えた人は5.0%で、「知らない(94.2%)」と答えた人の方が多かった。年齢別では、20歳代以下は知っていると回答した人がおらず、70歳代以上(2.6%)も他の世代より少なかった。40歳代(9.5%)、50歳代(8.3%)は他の世代より知っていると答えた人が多い傾向であった。

4 北九州市の自然環境保全の取組

本市では、生物多様性戦略を推進するために、市民参加型イベントや環境保全に関する情報発信、曾根干潟などの本市を代表する自然環境の現状を把握するための環境調査など、様々な取組を行っています。

問4-1 本市での自然環境の保全に関する取組のうち、知っているものを以下から選択してください。(複数回答可)

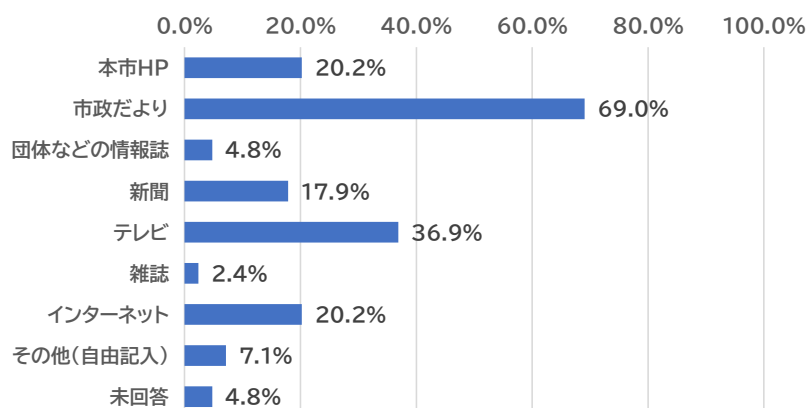


		回答者数	自然環境保全活動支援事業	平尾台ツアーやカプトガニ産卵観察ツアーなどの自然体感事業	北九州市の自然に関する小学校へ出張授業	曾根干潟などの自然環境調査	ホームページによる情報発信	その他(自由記入)	知らない
全体		139	7.9%	34.5%	20.9%	33.8%	12.9%	0.7%	39.6%
性別	男性	62	8.1%	33.9%	24.2%	33.9%	14.5%	0.0%	40.3%
	女性	77	7.8%	35.1%	18.2%	33.8%	11.7%	1.3%	39.0%
年齢別	20歳代以下	15	0.0%	46.7%	26.7%	26.7%	40.0%	0.0%	26.7%
	30歳代	20	5.0%	40.0%	35.0%	25.0%	15.0%	0.0%	40.0%
	40歳代	21	9.5%	28.6%	14.3%	38.1%	14.3%	0.0%	42.9%
	50歳代	24	12.5%	29.2%	20.8%	33.3%	12.5%	0.0%	41.7%
	60歳代	21	9.5%	28.6%	14.3%	28.6%	9.5%	0.0%	42.9%
	70歳代以上	38	7.9%	36.8%	18.4%	42.1%	2.6%	2.6%	39.5%
区別	門司区	15	6.7%	26.7%	20.0%	40.0%	13.3%	0.0%	46.7%
	小倉北区	33	6.1%	45.5%	27.3%	30.3%	12.1%	0.0%	42.4%
	小倉南区	25	12.0%	28.0%	20.0%	24.0%	16.0%	4.0%	40.0%
	若松区	8	0.0%	37.5%	12.5%	37.5%	12.5%	0.0%	50.0%
	八幡東区	10	10.0%	30.0%	30.0%	40.0%	10.0%	0.0%	40.0%
	八幡西区	38	10.5%	26.3%	18.4%	42.1%	13.2%	0.0%	31.6%
	戸畑区	10	0.0%	60.0%	10.0%	20.0%	10.0%	0.0%	40.0%

本市での自然環境の保全に関する取組について、「知らない」と答えた人が39.6%と最も多い結果であった。20歳代以下は、「知らない(26.7%)」と回答する人が他の世代より少なく、「ホームページによる情報発信(40.0%)」を答える人も多かった。

問4-2 問4-1で「7 知らない」以外を選択した方にお尋ねします。

本市の自然環境に関する取組を、どこで知りましたか。(複数回答可)



本市の自然環境に関する取組を、「市政だより」で知ったと答えた人が 69.0%と最も多かった。次いで「テレビ(36.9%)」、「本市HP(20.2%)」、「インターネット(20.2%)」という結果であった。年齢別では、20歳代以下が「テレビ(54.5%)」、「インターネット(36.4%)」と答える人の割合が他の世代より高く、「新聞」と答えた人は、50歳代(21.4%)や70歳代以上(30.4%)で高い傾向にあった。「その他」の回答では、イベントや施設の広報展示や子どもの学校からとの回答があった。

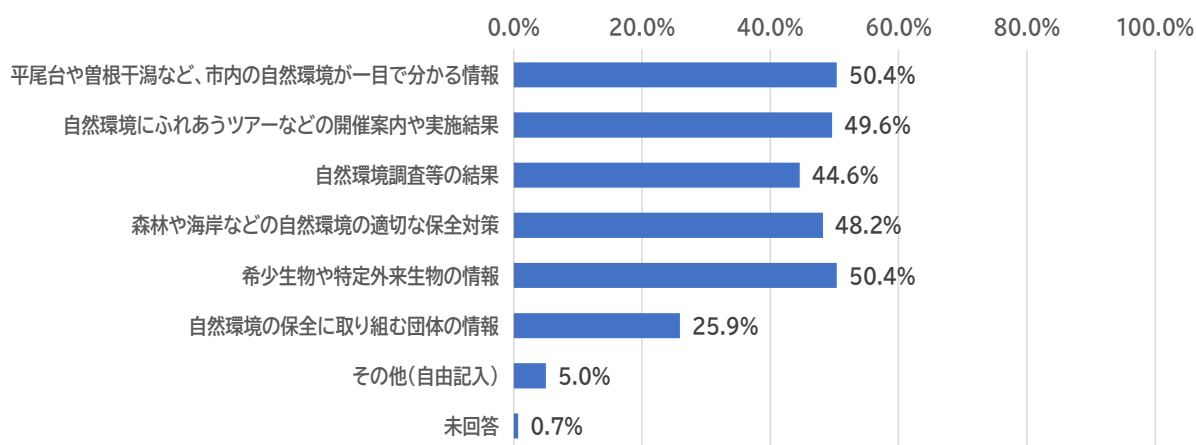
【参考】 自由記入の主な回答

- ・ イベント等での広報
- ・ 博物館の展示
- ・ 子供の通う学校の配布物、授業での体験

		回答者数	本市 HP	市政だより	団体などの情報誌	新聞	テレビ
全体		84	20.2%	69.0%	4.8%	17.9%	36.9%
性別	男性	37	18.9%	67.6%	8.1%	18.9%	35.1%
	女性	47	21.3%	70.2%	2.1%	17.0%	38.3%
年齢別	20歳代以下	11	18.2%	63.6%	0.0%	0.0%	54.5%
	30歳代	12	16.7%	75.0%	0.0%	16.7%	33.3%
	40歳代	12	41.7%	83.3%	8.3%	8.3%	41.7%
	50歳代	14	21.4%	64.3%	7.1%	21.4%	35.7%
	60歳代	12	33.3%	75.0%	8.3%	16.7%	16.7%
	70歳代以上	23	4.3%	60.9%	4.3%	30.4%	39.1%
区別	門司区	8	50.0%	75.0%	0.0%	25.0%	37.5%
	小倉北区	19	10.5%	52.6%	10.5%	15.8%	42.1%
	小倉南区	15	33.3%	80.0%	0.0%	13.3%	33.3%
	若松区	4	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	75.0%
	八幡東区	6	33.3%	100.0%	0.0%	33.3%	33.3%
	八幡西区	26	11.5%	69.2%	7.7%	15.4%	38.5%
	戸畑区	6	0.0%	66.7%	0.0%	16.7%	0.0%

		回答者数	雑誌	インターネット	その他 (自由記入)	未回答
全体		84	2.4%	20.2%	7.1%	4.8%
性別	男性	37	2.7%	21.6%	5.4%	8.1%
	女性	47	2.1%	19.1%	8.5%	2.1%
年齢別	20歳代以下	11	0.0%	36.4%	0.0%	0.0%
	30歳代	12	0.0%	8.3%	16.7%	0.0%
	40歳代	12	8.3%	25.0%	16.7%	0.0%
	50歳代	14	7.1%	28.6%	7.1%	0.0%
	60歳代	12	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
	70歳代以上	23	0.0%	13.0%	4.3%	17.4%
区別	門司区	8	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%
	小倉北区	19	5.3%	36.8%	10.5%	10.5%
	小倉南区	15	0.0%	6.7%	6.7%	0.0%
	若松区	4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	6	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
	八幡西区	26	0.0%	15.4%	3.8%	3.8%
	戸畑区	6	0.0%	50.0%	33.3%	0.0%

問4-3 本市の自然環境保全に関する取組や情報について、どのような内容を知りたいですか。(複数回答可)



本市の自然環境保全に関する取組や情報について知りたい内容は、「平尾台や曽根干潟など、市内の自然環境が一目で分かる情報」と「希少生物や特定外来生物の情報」が50.4%と同率で最も多かった。「自然環境にふれあうツアーなどの開催案内や実施結果(49.6%)」や「森林や海岸などの自然環境の適切な保全対策(48.2%)」、「自然環境調査等の結果(44.6%)」と答えた人も多く、上位5項目の差は小さいものであった。

【参考】自由記入の主な回答

- ・ 北九州市の都市部や、その他の地域(山間部、海浜部)における温暖化の状況について、過去から現代までの推移が分かる統計や資料
- ・ 子どもの長期休みを通して、子どもだけでも参加できるようなイベントをやってほしい。もっと積極的に親子のイベントをやって欲しい。

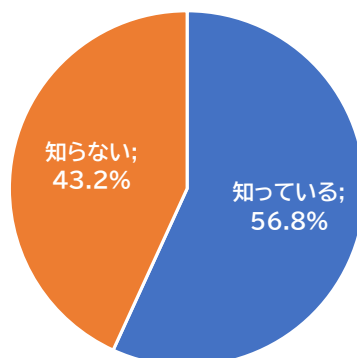
		回答者数	平尾台や曽根干潟など、市内の自然環境が一目で分かる情報	自然環境にふれあうツアーなどの開催案内や実施結果	自然環境調査等の結果	森林や海岸などの自然環境の適切な保全対策
全体		139	50.4%	49.6%	44.6%	48.2%
性別	男性	62	45.2%	48.4%	50.0%	43.5%
	女性	77	54.5%	50.6%	40.3%	51.9%
年齢別	20歳代以下	15	33.3%	46.7%	60.0%	33.3%
	30歳代	20	45.0%	50.0%	20.0%	30.0%
	40歳代	21	52.4%	38.1%	61.9%	57.1%
	50歳代	24	45.8%	37.5%	45.8%	41.7%
	60歳代	21	47.6%	42.9%	33.3%	52.4%
	70歳代以上	38	63.2%	68.4%	47.4%	60.5%
区別	門司区	15	60.0%	46.7%	66.7%	60.0%
	小倉北区	33	63.6%	60.6%	45.5%	36.4%
	小倉南区	25	48.0%	60.0%	32.0%	32.0%
	若松区	8	37.5%	25.0%	62.5%	50.0%
	八幡東区	10	40.0%	40.0%	60.0%	70.0%
	八幡西区	38	47.4%	50.0%	42.1%	55.3%
	戸畑区	10	30.0%	20.0%	20.0%	60.0%

		回答者数	希少生物や特定外来生物の情報	自然環境の保全に取り組む団体の情報	その他(自由記入)	未回答
全体		139	50.4%	25.9%	5.0%	0.7%
性別	男性	62	54.8%	27.4%	6.5%	1.6%
	女性	77	46.8%	24.7%	3.9%	0.0%
年齢別	20歳代以下	15	40.0%	20.0%	6.7%	0.0%
	30歳代	20	40.0%	20.0%	5.0%	0.0%
	40歳代	21	52.4%	23.8%	0.0%	0.0%
	50歳代	24	54.2%	25.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	21	38.1%	19.0%	4.8%	0.0%
	70歳代以上	38	63.2%	36.8%	10.5%	2.6%
区別	門司区	15	53.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	小倉北区	33	45.5%	27.3%	3.0%	0.0%
	小倉南区	25	40.0%	20.0%	0.0%	4.0%
	若松区	8	50.0%	37.5%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10	70.0%	20.0%	20.0%	0.0%
	八幡西区	38	55.3%	28.9%	5.3%	0.0%
	戸畑区	10	50.0%	10.0%	20.0%	0.0%

5 響灘ビオトープ

若松区の廃棄物処分場跡地にある「響灘ビオトープ」は、日本最大級のビオトープとして、令和4年10月6日に開園10周年を迎えました。希少な生き物だけでなく、どこでも見ることのできる生き物もそれぞれがここで生活しています。

問5-1 響灘ビオトープについて、知っていますか。

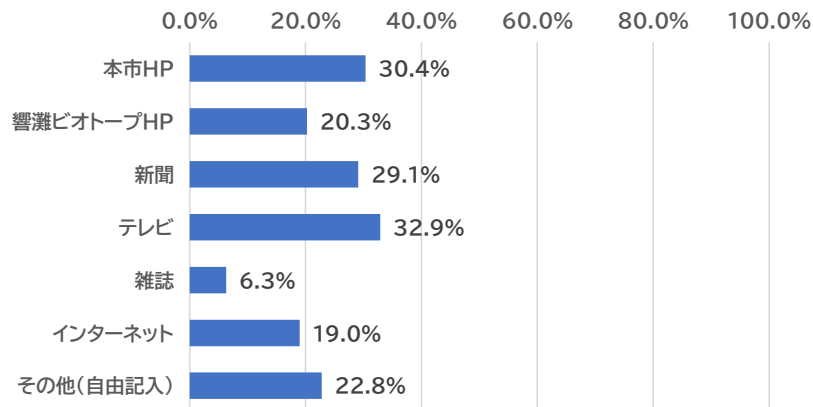


		回答者数	知っている	知らない
全体		139	56.8%	43.2%
性別	男性	62	56.5%	43.5%
	女性	77	57.1%	42.9%
年齢別	20歳代以下	15	40.0%	60.0%
	30歳代	20	55.0%	45.0%
	40歳代	21	61.9%	38.1%
	50歳代	24	45.8%	54.2%
	60歳代	21	57.1%	42.9%
	70歳代以上	38	68.4%	31.6%
区別	門司区	15	46.7%	53.3%
	小倉北区	33	57.6%	42.4%
	小倉南区	25	60.0%	40.0%
	若松区	8	62.5%	37.5%
	八幡東区	10	40.0%	60.0%
	八幡西区	38	63.2%	36.8%
	戸畑区	10	50.0%	50.0%

響灘ビオトープを「知っている」と答えた人は56.8%であった。年齢別では、「知らない」と答えた人が20歳代以下(60.0%)と50歳代(54.2%)で多く、その他の世代では「知っている」と答えた人が多い結果であった。「知っている」と最も多く答えた世代は70歳代以上(68.4%)であった。区別で「知っている」と答えた人が多かったのは、八幡西区(63.2%)、若松区(62.5%)、小倉南区(60.0%)であった。

問5-2 問5-1で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。

響灘ビオトープについて、どのように知りましたか。(複数回答可)



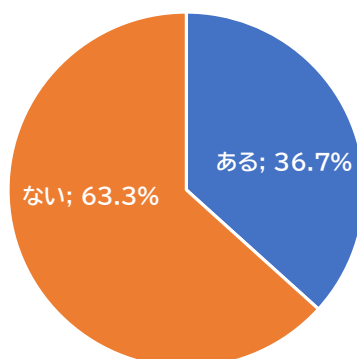
		回答者数	本市 HP	響灘ビオトープ HP	新聞	テレビ	雑誌	インターネット	その他(自由記入)
全体		79	30.4%	20.3%	29.1%	32.9%	6.3%	19.0%	22.8%
性別	男性	35	31.4%	25.7%	20.0%	25.7%	5.7%	22.9%	28.6%
	女性	44	29.5%	15.9%	36.4%	38.6%	6.8%	15.9%	18.2%
年齢別	20歳代以下	6	16.7%	33.3%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%
	30歳代	11	36.4%	18.2%	18.2%	18.2%	0.0%	9.1%	27.3%
	40歳代	13	23.1%	30.8%	38.5%	30.8%	0.0%	38.5%	23.1%
	50歳代	11	27.3%	9.1%	45.5%	36.4%	18.2%	18.2%	9.1%
	60歳代	12	50.0%	16.7%	25.0%	16.7%	0.0%	25.0%	16.7%
	70歳代以上	26	26.9%	19.2%	26.9%	46.2%	11.5%	11.5%	34.6%
区別	門司区	7	14.3%	42.9%	14.3%	28.6%	0.0%	14.3%	42.9%
	小倉北区	19	36.8%	26.3%	26.3%	36.8%	15.8%	31.6%	10.5%
	小倉南区	15	26.7%	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	6.7%
	若松区	5	20.0%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	八幡東区	4	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	75.0%
	八幡西区	24	45.8%	20.8%	20.8%	16.7%	4.2%	12.5%	29.2%
	戸畑区	5	0.0%	0.0%	60.0%	60.0%	20.0%	40.0%	20.0%

響灘ビオトープを知った情報源は、「テレビ(32.9%)」と答えた人が最も多かった。次いで「本市HP(30.4%)」、「新聞(29.1%)」という結果であり、上位3項目の割合に大きな差はなかった。年齢別では、60歳代が「本市HP(50.0%)」の回答が多く、40歳代は「インターネット(38.5%)」の回答が多い結果であった。「その他」と答えた回答には、「子どもの校外学習」や「通勤で見ていた」、「釣りで近くを通る」などの日常行動をきっかけとする意見もあった。

【参考】自由記入の主な回答

- ・ 通勤の時に見る。
- ・ 市政だより
- ・ イベント等
- ・ 趣味の釣りで近くを良く通るから
- ・ 子供の校外学習。
- ・ FM ラジオ
- ・ 近隣の職場で働いているときに宣伝されていた
- ・ 若松みなと祭り

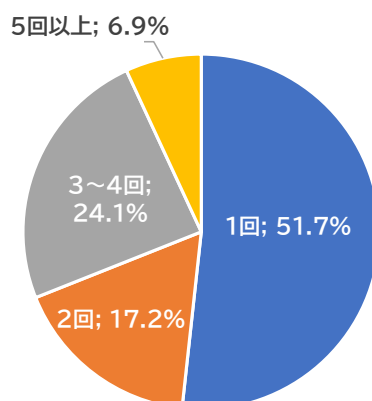
問5-3 問5-1で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。
響灘ビオトープに行ったことがありますか。



		回答者数	ある	ない
全体		79	36.7%	63.3%
性別	男性	35	37.1%	62.9%
	女性	44	36.4%	63.6%
年齢別	20歳代以下	6	0.0%	100.0%
	30歳代	11	18.2%	81.8%
	40歳代	13	61.5%	38.5%
	50歳代	11	18.2%	81.8%
	60歳代	12	50.0%	50.0%
	70歳代以上	26	42.3%	57.7%
区別	門司区	7	28.6%	71.4%
	小倉北区	19	36.8%	63.2%
	小倉南区	15	40.0%	60.0%
	若松区	5	20.0%	80.0%
	八幡東区	4	50.0%	50.0%
	八幡西区	24	41.7%	58.3%
	戸畑区	5	20.0%	80.0%

響灘ビオトープに行ったことが「ない」と答えた人は63.3%で、「ない」と答えた人が多い結果であった。行ったことがあるとの回答が最も多かった年代は40歳代(61.5%)であり、行ったことがないとの回答が多かったのは20歳代以下(100.0%)や30歳代(81.8%)、50歳代(81.8%)であった。響灘ビオトープのある若松区(80.0%)でも行ったことがないと答える人が多かった。

問5-4 問5-3で「1 ある」を選択した方にお尋ねします。
響灘ビオトープを何回訪れたことがありますか。

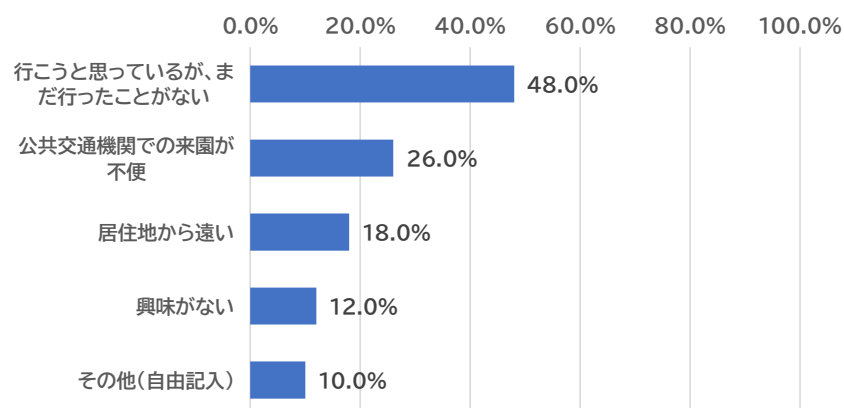


		回答者数	1回	2回	3~4回	5回以上
全体		29	51.7%	17.2%	24.1%	6.9%
性別	男性	13	30.8%	23.1%	38.5%	7.7%
	女性	16	68.8%	12.5%	12.5%	6.3%
年齢別	20歳代以下	0	-	-	-	-
	30歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	8	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	50歳代	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	6	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	70歳代以上	11	36.4%	18.2%	27.3%	18.2%
区別	門司区	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	7	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%
	小倉南区	6	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%
	若松区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	八幡西区	10	50.0%	0.0%	40.0%	10.0%
	戸畑区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

響灘ビオトープを訪れた回数は、「1回」と答えた人が51.7%で最も多い結果であった。「3~4回(24.1%)」、「2回(17.2%)」、「5回以上(6.9%)」と続き、複数回訪れる人も半分程度の回答であった。年齢別では、70歳代以上で複数回訪れる人(2回以上の選択肢)が多くなっている。

問5-5 問5-3で「2 ない」を選択した方にお尋ねします。

響灘ビオトープに行ったことがない理由は何ですか。



		回答者数	行こうと思っているが、まだ行ったことがない	公共交通機関での来園が不便	居住地から遠い	興味がない	その他(自由記入)
全体		50	48.0%	26.0%	18.0%	12.0%	10.0%
性別	男性	22	36.4%	27.3%	22.7%	9.1%	9.1%
	女性	28	57.1%	25.0%	14.3%	14.3%	10.7%
年齢別	20歳代以下	6	66.7%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%
	30歳代	9	33.3%	22.2%	22.2%	11.1%	11.1%
	40歳代	5	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%
	50歳代	9	66.7%	22.2%	11.1%	0.0%	11.1%
	60歳代	6	16.7%	33.3%	16.7%	33.3%	0.0%
	70歳代以上	15	53.3%	33.3%	26.7%	13.3%	13.3%
区別	門司区	5	60.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%
	小倉北区	12	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%
	小倉南区	9	33.3%	33.3%	44.4%	11.1%	0.0%
	若松区	4	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
	八幡西区	14	57.1%	35.7%	14.3%	0.0%	14.3%
	戸畑区	4	75.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%

響灘ビオトープに行ったことがない理由は、「行こうと思っているが、まだ行ったことがない」が48.0%で最も多い結果であり、次いで「公共交通機関での来園が不便(26.0%)」、「居住地から遠い(18.0%)」と続き、「興味がない」の回答は12.0%であった。

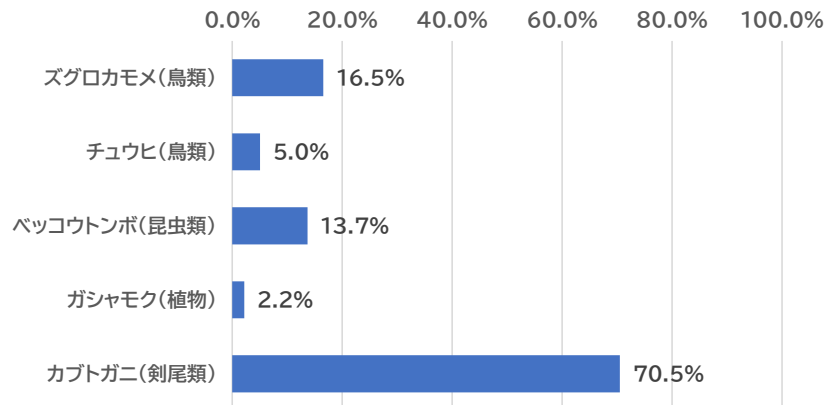
【参考】自由記入の主な回答

- ・ 職業に専念していますのでなかなかビオトープに足が進んでいません。
- ・ 小中学生の時代に、市内で同じような環境を見たことがあるから。
- ・ 近くを通ったが足元が汚れそうで行かなかった。

6 希少生物の保護・保全及び特定外来生物

本市では、希少生物の保護・保全及び特定外来生物に対する市民啓発等を行っています。

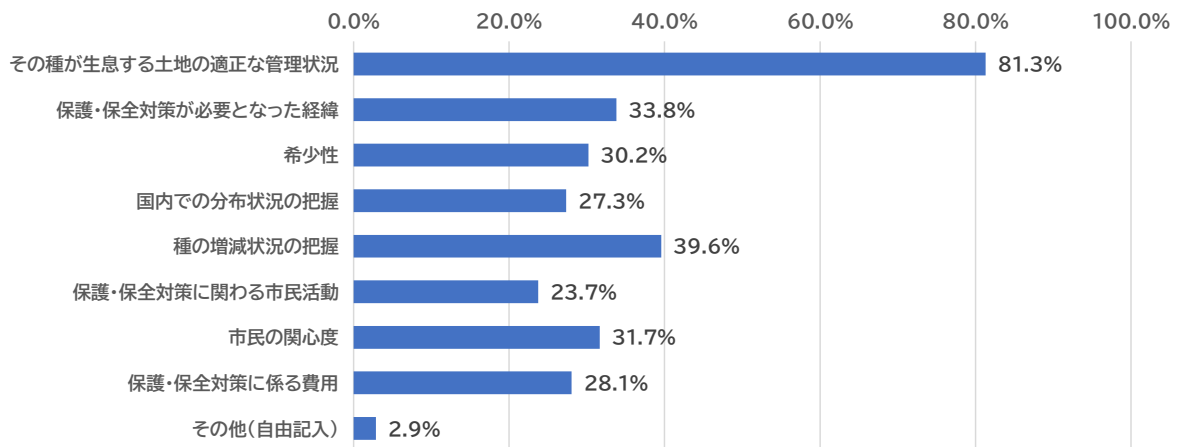
問6-1 本市で生息等が確認されている希少生物について、知っているものを選択してください。(複数回答可)



		回答者数	ズグロカモメ(鳥類)	チュウヒ(鳥類)	バッコウトンボ(昆虫類)	ガシャモク(植物)	カブトガニ(剣尾類)
全体		139	16.5%	5.0%	13.7%	2.2%	70.5%
性別	男性	62	22.6%	6.5%	16.1%	3.2%	72.6%
	女性	77	11.7%	3.9%	11.7%	1.3%	68.8%
年齢別	20歳代以下	15	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%
	30歳代	20	15.0%	5.0%	10.0%	5.0%	65.0%
	40歳代	21	4.8%	9.5%	23.8%	9.5%	66.7%
	50歳代	24	8.3%	0.0%	4.2%	0.0%	66.7%
	60歳代	21	9.5%	4.8%	0.0%	0.0%	66.7%
	70歳代以上	38	36.8%	7.9%	28.9%	0.0%	84.2%
区別	門司区	15	6.7%	6.7%	20.0%	0.0%	60.0%
	小倉北区	33	6.1%	0.0%	12.1%	0.0%	78.8%
	小倉南区	25	4.0%	4.0%	8.0%	4.0%	64.0%
	若松区	8	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	75.0%
	八幡東区	10	20.0%	0.0%	10.0%	10.0%	80.0%
	八幡西区	38	42.1%	13.2%	21.1%	2.6%	65.8%
	戸畑区	10	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%

希少生物について知っているものを尋ねたところ、「カブトガニ(剣尾類)」を答えた人が70.5%で最も多かった。「チュウヒ(鳥類)(5.0%)」、「ガシャモク(植物)(2.2%)」と答えた人は少なかった。年齢別では、20歳代以下でカブトガニとズグロカモメ以外を答えた人がおらず、希少生物の認知度が他の世代より低い結果となっている。

問6-2 希少生物の保護・保全対策について、重要だと思うものを3つ選択してください。

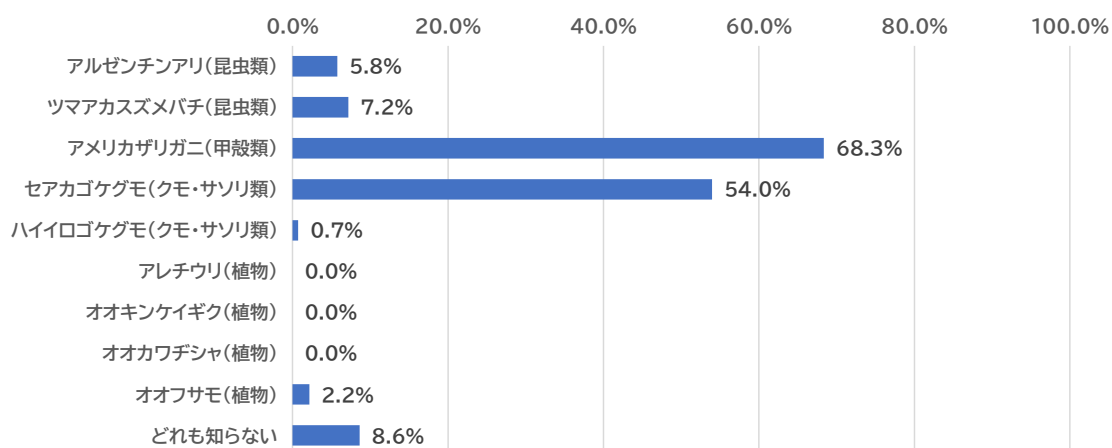
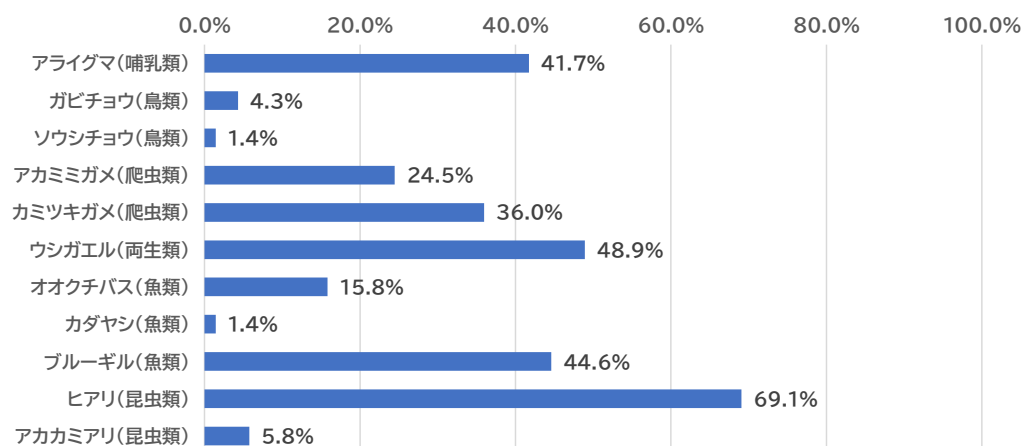


希少生物の保護・保全対策について重要だと思うものは、「その種が生息する土地の適正な管理状況」が81.3%で最も多い結果であった。次いで「種の増減状況の把握(39.6%)」、「保護・保全対策が必要となった経緯(33.8%)」となり、3位以降の項目に大きな差は見られなかった。「市民の関心度」の回答については、70歳代以上(47.4%)で回答する人が他の世代より多く、20歳代以下や30歳代で20.0%(同率)であり、少ない傾向にあった。

		回答者数	その種が生息する土地の適正な管理状況	保護・保全対策が必要となった経緯	希少性	国内での分布状況の把握	種の増減状況の把握
全体		139	81.3%	33.8%	30.2%	27.3%	39.6%
性別	男性	62	79.0%	33.9%	27.4%	27.4%	43.5%
	女性	77	83.1%	33.8%	32.5%	27.3%	36.4%
年齢別	20歳代以下	15	93.3%	33.3%	26.7%	6.7%	60.0%
	30歳代	20	90.0%	40.0%	30.0%	30.0%	30.0%
	40歳代	21	71.4%	38.1%	23.8%	42.9%	42.9%
	50歳代	24	79.2%	41.7%	37.5%	29.2%	41.7%
	60歳代	21	71.4%	38.1%	33.3%	28.6%	33.3%
	70歳代以上	38	84.2%	21.1%	28.9%	23.7%	36.8%
区別	門司区	15	66.7%	20.0%	20.0%	53.3%	53.3%
	小倉北区	33	78.8%	45.5%	27.3%	15.2%	36.4%
	小倉南区	25	84.0%	20.0%	48.0%	20.0%	20.0%
	若松区	8	87.5%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%
	八幡東区	10	90.0%	30.0%	20.0%	50.0%	40.0%
	八幡西区	38	84.2%	36.8%	34.2%	28.9%	44.7%
	戸畑区	10	80.0%	50.0%	30.0%	20.0%	70.0%

		回答者数	保護・保全対策に関わる市民活動	市民の関心度	保護・保全対策に係る費用	その他(自由記入)
全体		139	23.7%	31.7%	28.1%	2.9%
性別	男性	62	24.2%	32.3%	27.4%	1.6%
	女性	77	23.4%	31.2%	28.6%	3.9%
年齢別	20歳代以下	15	26.7%	20.0%	33.3%	0.0%
	30歳代	20	35.0%	20.0%	25.0%	0.0%
	40歳代	21	23.8%	38.1%	14.3%	4.8%
	50歳代	24	16.7%	29.2%	25.0%	0.0%
	60歳代	21	23.8%	19.0%	38.1%	4.8%
	70歳代以上	38	21.1%	47.4%	31.6%	5.3%
区別	門司区	15	20.0%	20.0%	46.7%	0.0%
	小倉北区	33	30.3%	39.4%	24.2%	3.0%
	小倉南区	25	28.0%	48.0%	24.0%	4.0%
	若松区	8	50.0%	37.5%	37.5%	0.0%
	八幡東区	10	40.0%	10.0%	20.0%	10.0%
	八幡西区	38	13.2%	26.3%	28.9%	2.6%
	戸畑区	10	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%

問6-3 本市で生息等が確認されている特定外来生物について、知っているものを選択してください。(複数回答可)



本市で生息等が確認されている特定外来生物について知っているものは、「ヒアリ(昆虫類)」が69.1%で最も多い結果であった。次いで「アメリカザリガニ(甲殻類)(68.3%)」、「セアカゴケグモ(クモ・サソリ類)(54.0%)」、「ウシガエル(両生類)(48.9%)」という結果となった。「どれも知らない」と答えた人は、比較的40歳代と60歳代が14.3%(同率)で、多い結果であった。「アレチウリ(植物)」、「オオキンケイギク(植物)」、「オオカワヂシャ(植物)」を知っていると回答した人はいなかった。

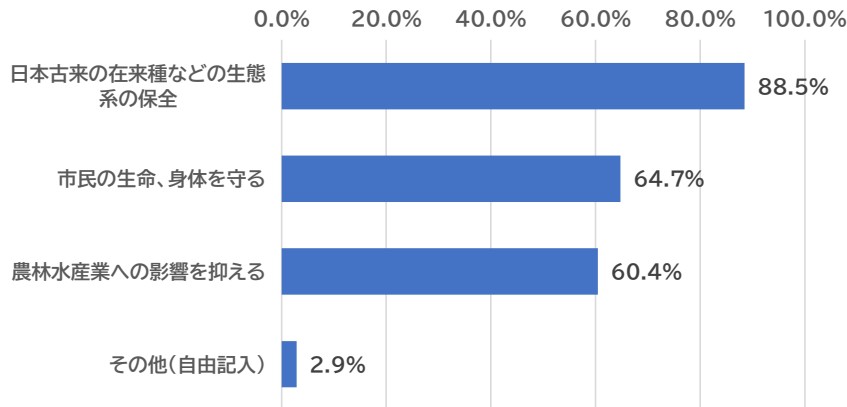
		回答者数	アライグマ (哺乳類)	ガビチョウ (鳥類)	ソウシチョウ (鳥類)	アカミミガメ (爬虫類)	カミツキガメ (爬虫類)
全体		139	41.7%	4.3%	1.4%	24.5%	36.0%
性別	男性	62	41.9%	3.2%	0.0%	30.6%	37.1%
	女性	77	41.6%	5.2%	2.6%	19.5%	35.1%
年齢別	20歳代以下	15	20.0%	0.0%	6.7%	40.0%	40.0%
	30歳代	20	45.0%	10.0%	0.0%	20.0%	20.0%
	40歳代	21	52.4%	9.5%	0.0%	33.3%	33.3%
	50歳代	24	54.2%	0.0%	0.0%	25.0%	37.5%
	60歳代	21	38.1%	4.8%	0.0%	9.5%	33.3%
	70歳代以上	38	36.8%	2.6%	2.6%	23.7%	44.7%
区別	門司区	15	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	26.7%
	小倉北区	33	54.5%	0.0%	3.0%	39.4%	45.5%
	小倉南区	25	32.0%	8.0%	0.0%	20.0%	16.0%
	若松区	8	62.5%	0.0%	0.0%	12.5%	50.0%
	八幡東区	10	30.0%	0.0%	0.0%	10.0%	40.0%
	八幡西区	38	42.1%	10.5%	2.6%	26.3%	34.2%
	戸畑区	10	50.0%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%

		回答者数	ウシガエル (両生類)	オオクチバス (魚類)	カダヤシ (魚類)	ブルーギル (魚類)	ヒアリ(昆虫類)	アカカミアリ (昆虫類)
全体		139	48.9%	15.8%	1.4%	44.6%	69.1%	5.8%
性別	男性	62	50.0%	19.4%	3.2%	51.6%	66.1%	3.2%
	女性	77	48.1%	13.0%	0.0%	39.0%	71.4%	7.8%
年齢別	20歳代以下	15	40.0%	20.0%	0.0%	26.7%	66.7%	0.0%
	30歳代	20	50.0%	0.0%	0.0%	35.0%	70.0%	10.0%
	40歳代	21	52.4%	14.3%	0.0%	61.9%	57.1%	4.8%
	50歳代	24	50.0%	20.8%	0.0%	41.7%	75.0%	4.2%
	60歳代	21	42.9%	14.3%	4.8%	33.3%	66.7%	9.5%
	70歳代以上	38	52.6%	21.1%	2.6%	55.3%	73.7%	5.3%
区別	門司区	15	46.7%	20.0%	6.7%	26.7%	60.0%	0.0%
	小倉北区	33	54.5%	24.2%	0.0%	54.5%	75.8%	6.1%
	小倉南区	25	56.0%	8.0%	0.0%	48.0%	56.0%	4.0%
	若松区	8	50.0%	25.0%	12.5%	37.5%	75.0%	12.5%
	八幡東区	10	40.0%	0.0%	0.0%	30.0%	60.0%	10.0%
	八幡西区	38	42.1%	15.8%	0.0%	42.1%	78.9%	7.9%
	戸畑区	10	50.0%	10.0%	0.0%	60.0%	60.0%	0.0%

		回答者数	アルゼンチンアリ(昆虫類)	ツマアカスズメバチ(昆虫類)	アメリカザリガニ(甲殻類)	セアカゴケグモ(クモ・サソリ類)	ハイイロゴケグモ(クモ・サソリ類)
全体		139	5.8%	7.2%	68.3%	54.0%	0.7%
性別	男性	62	4.8%	11.3%	69.4%	61.3%	0.0%
	女性	77	6.5%	3.9%	67.5%	48.1%	1.3%
年齢別	20歳代以下	15	6.7%	13.3%	73.3%	46.7%	0.0%
	30歳代	20	5.0%	5.0%	60.0%	65.0%	0.0%
	40歳代	21	14.3%	9.5%	76.2%	57.1%	0.0%
	50歳代	24	4.2%	8.3%	66.7%	37.5%	4.2%
	60歳代	21	0.0%	9.5%	57.1%	47.6%	0.0%
	70歳代以上	38	5.3%	2.6%	73.7%	63.2%	0.0%
区別	門司区	15	6.7%	6.7%	60.0%	66.7%	0.0%
	小倉北区	33	3.0%	6.1%	84.8%	69.7%	3.0%
	小倉南区	25	0.0%	0.0%	60.0%	24.0%	0.0%
	若松区	8	12.5%	12.5%	62.5%	75.0%	0.0%
	八幡東区	10	0.0%	10.0%	60.0%	30.0%	0.0%
	八幡西区	38	13.2%	7.9%	68.4%	57.9%	0.0%
	戸畑区	10	0.0%	20.0%	60.0%	50.0%	0.0%

		回答者数	アレチウリ(植物)	オオキンケイギク(植物)	オオカワヂシャ(植物)	オオフサモ(植物)	どれも知らない
全体		139	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	8.6%
性別	男性	62	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	6.5%
	女性	77	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	10.4%
年齢別	20歳代以下	15	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	6.7%
	30歳代	20	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%
	40歳代	21	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%
	50歳代	24	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%
	60歳代	21	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	14.3%
	70歳代以上	38	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	7.9%
区別	門司区	15	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	小倉北区	33	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	3.0%
	小倉南区	25	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.0%
	若松区	8	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%
	八幡東区	10	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	八幡西区	38	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	5.3%
	戸畑区	10	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問6-4 特定外来生物対策を行わないといけない理由は何だと思いませんか。(3つまで回答可)



		回答者数	日本古来の在来種などの生態系の保全	市民の生命、身体を守る	農林水産業への影響を抑える	その他(自由記入)
全体		139	88.5%	64.7%	60.4%	2.9%
性別	男性	62	87.1%	67.7%	59.7%	4.8%
	女性	77	89.6%	62.3%	61.0%	1.3%
年齢別	20歳代以下	15	86.7%	60.0%	46.7%	6.7%
	30歳代	20	90.0%	75.0%	60.0%	0.0%
	40歳代	21	90.5%	57.1%	57.1%	0.0%
	50歳代	24	91.7%	58.3%	66.7%	0.0%
	60歳代	21	76.2%	52.4%	47.6%	4.8%
	70歳代以上	38	92.1%	76.3%	71.1%	5.3%
区別	門司区	15	86.7%	73.3%	60.0%	0.0%
	小倉北区	33	87.9%	63.6%	57.6%	0.0%
	小倉南区	25	76.0%	56.0%	68.0%	0.0%
	若松区	8	100.0%	62.5%	62.5%	0.0%
	八幡東区	10	100.0%	80.0%	70.0%	20.0%
	八幡西区	38	92.1%	65.8%	55.3%	2.6%
	戸畑区	10	90.0%	60.0%	60.0%	10.0%

特定外来生物対策を行わないといけない理由は、「日本古来の在来種などの生態系の保全」と答えた人が88.5%で最も多い結果であり、「市民の生命、身体を守る(64.7%)」、「農林水産業への影響を抑える(60.4%)」と続いた。

7 北九州市の自然環境に関する取組に対するご意見等

問 7 本市の自然環境に関する取組等についてのご意見等がございましたら、ご記入願います。

自然環境および生物多様性に関する現状

- これまで自然は好きな方で、小さな頃から色々な自然と触れ合った気でいましたが、今回のアンケートで、北九州市の自然について認識不足だと実感させられました。
- 途中でも記入しましたが公園に木が少ない(伐採等により)のがとても気になります。年々厳しい暑さの中、木陰はとても大切だと思います。
- カラスが増えているのには閉口します。
- 生物多様性の重要性はどういうことを知るべきですか？
- 私の住んでいる隣は、森林(さつき台)を開発して 400 戸以上の住宅地になりました。その当時「緑を守りましょう」という世間の中で北九州市はあいもかわらず自然を破壊し、近所ではヘビ・サル・鳥が住みかを追われ民家に洗濯物などの被害が出ました。住宅地を整備しなくても魅力ある街作りはできないのか。市長が変わった今、本気になって欲しい。自然を守って欲しい！！
- 気候変動による影響がかなり大きいと思います。野菜の値上がりや作物の育成に危機感を抱くだけではなく魚の漁獲量も減少しています。食品ロスをなくす為にも台風等で市場に出せない物でも流通して安価で購入出来る体制ができると物価高の昨今でもいいのではないのでしょうか。
- 余談ですが、先日近くの江川(若松区、大鳥居付近)で白鳥を 2 羽を見かけました。他にも見た人がいると聞いたので間違いないと思います。不思議です。
- 現在も、色々な外来種が来てしまっていますが、海外で流行中のトコジラミなども流入は防げないのではないかと懸念しています。気温差の激しさ等気候変動による植物の生育不足なども課題だと感じています。
- 知らないことが、多すぎました。恥じてますが、この様な機会に接することが少ないと思う。
- 博物館の展示などで北九州市の自然環境について学ぶ機会がありましたが、具体的な生き物の名前まで理解できていなかったなどこのアンケートで感じました。もう少し関心を持てるような意識づけをして行けたら良いなと思いました。
- 街路樹や公園に植えてある草木に名札をつけて欲しい！
- 公園等に商物を植える時に、珍しいものも仲間に入れて市民に知られるようにしてほしい！！
- 不法投棄を山間部で複数見かけます。見た目にも環境にもマイナスなので巡回や啓発などを進めてほしい。
- 山や川で子供と遊びたいが、近寄りたいたいほど雑草が生い茂ったり、滝に行く山道が険し

かったりするので近寄れない。まずは身近なところから整備してほしい。

- 太陽光自然エネルギー発電の設置について、山林をなくして大型を開発している処がある。条件があるのか？
- 住宅街にあるため池に草が繁殖して更に泥がたまっており、豪雨のときや夏の蚊の繁殖など心配である。市に浚渫等の申請をしても予算がないといって相手にしてもらえない（八幡西区藤原 1 丁目公園の傍にある排水用ため池）。このような身近な部分で未対策の施設はたくさんあると思いますが、市の表向きのかっこいい対策とは裏腹に見捨てられている感じがしています。自然環境への対策というのは、まず身近で困っているところからスタートすべきだと考えます。
- 八幡東区の住宅街で多くの穴熊が廃屋などに住み着き、糞害等が発生しているが、害獣認定されていないとのことで役所は対応しないと聞いている。ただ、幼稚園所有の畑の作物が荒らされたり、道路の糞害の対応をしたりと市民生活に影響は出ている。被害調査や生息数の把握をしているのか、それすらしていないのか疑問が残る。

生物多様性地域戦略の取組の現状について

- 今回このアンケートで「北九州市自然環境保全基本計画」、「北九州市の生物多様性戦略」という言葉をはじめて知った。市政だより、ニュースブリッジ北九州等で発信されているんだろうか？目にする機会が全くなかった。このような戦略を知らない市民の方が多いと思う。市政だより一面でとりあげたらいいと思う（以前にあったかも知れませんが）。
- 自然環境で想定されるのは、これまでは曾根干潟でのカブトガニと響灘ビオトープでのトンボ位しか思い浮かびません。山田緑地の利活用を本格的に出来ないものでしょうか。山田緑地をなんとか…という人の意見がよく聞かれます。
- 知ろうとしない自分も悪いけれど市の取組みについての周知、PR が不足していると思われる。機会を積極的に作って広報していただきたい。
- 自然環境のこと今回のアンケートで関心がうすかったです。このアンケートを通じもっと関心を持ちたいと思います。市政だよりでももっととり上げてほしいと思います。
- 自然に関して無知なことに気付きました。もっと市民へ周知していただけると関心もてると思います。市としてどのような取組みをされているかアピールして下さい。
- 私は殆んど無知だったことを感じました。今後是非市民にこの課題、取組みについて各方面に多岐に渡って教室、活動、イベントをお願いしたいと思います。
- 山田緑地、平尾台等素晴らしい自然がありますが、市外に対してアピール不足だと思います。
- 色々取組みをされていることを今回初めて知った。情報発信の方法を考える必要があるのではないかと。今ある自然環境を守ることにについて、継続的、長期的に考えていかなければならないと思う。

- 取組はあまり知られていないので、もっと PR の必要性があると思います。
- 自然環境保全のための予算をしっかりと組んで欲しい。
- 実際に取り組んでいる内容の市民へのアピールがもっとあって良いのではないかと思います。
- 色々な外来生物が入って来ていることを知らなかった。北九州市の自然を守る活動を行いたい。
- 市の取組みについて知らない事が多い事がわかりました。もっと皆が目にしやすいよう発信して欲しかったらとおもいます。ちなみに私がいつも目を通すものは市政だよりです。
- 今回のアンケートがなかったら、北九州がこのような活動をしていることは知ることができませんでした。ホームページを見て、自分達のできることや関心を持つことなど気にかけてみたいと思いました。
- TV 等の媒体等では時々見かけますが、HP や SNS を使ったのアピールがまだ足りないと思います。
- 特に印象に残っている活動がない。
- 活動内容が不明。

今後の戦略策定に対して

- 希少生物の保護の推進をよりもっとお願いしたい。
- 本アンケートでビオトープを初めて調べましたが、個人でビオトープのはじめ方、作り方がネット上に出ていました。市のホームページ上でも、若松ビオトープ内に掲載されては？ 参画型の取組の与になるのでは。
- 北九州市の自然環境のうち足立山、帆柱山、平尾台の三ヶ所について市民の観光的な関心を高める活動をもっとしてください。平尾台のキャンピングカーでの利用を今春体験しましたが快適でした。
- 教育で子供達の学びのところから意識を植え付けて、人間の生き方に通じていくものだと思います。今、周望学舎で学んでいます。シニアにもこの問題のカリキュラムをとり入れると、賛同して自然ネットの会に入る人もいると思います。
- 手軽に行けて(動機も含めて)、自然に触れられるインフラ環境やイベント(ラフな!)などが多くなればうれしいです。
- 市政日より、テレビ、雑誌、チラシ等で自然に対する興味、関心をもって子供から大人まできれいな街、住みよい町に浸り心身共に健康に暮らして行けるよう力を合わせて生きたいものです。家の中での遊びより戸外に出て空を仰ぎ元気な体を作りたいです。皆で協力して良い町にしてゆきたいです。例えば、「〇〇公園は今〇〇の花がきれいに咲いています。」等の情報をお願いします。
- 大人も子供も自然に触れ合ったり自然の中に身を置ける様な大型公園(大濠公園等)の様

なものがもっと欲しい。車でも行く事が出来る様に駐車場等を多めにしてもらえたり、アクセスを良くしてもらい、皆がそこに足を運び易くすれば、様々な事に興味が生まれ、ひいては生物多様性やフレイル等、今の問題を解決出来る一助になると思う。

- 日常生活で身近にできる活動の周知があれば、気づく範囲でそれに従うと思います。
- 情報極めて少ない、市民が関心を持てる対策が必要と感じます。
- 何をしたらいいか、何から始めたらいいのか、手軽にできる事はないか、取り掛かりの部分を市政だより等でわかりやすく情報提供していただけると取組みのきっかけになると思いました。
- 今回のアンケートで知らないことがわかって良かったです。
- アンケートやクイズ等、参加型からいろんなことを知っていくのもいいと思いました。”
- 最近北九州の山にのぼりますが、トイレの整備は必要かと思います。(自然環境とは関係ないかも知れませんが)
- 以前 TV であった好きっちゃ北九州の再開を希望します。北九州の情報をもっと欲しい。
- 山田緑地がイマイチなので何とかしてほしい！！
- 大人になると自然環境について考える機会がかなり減るので、働く世代対象のなにかイベントなどがあればいいと思いました。
- 子どもの教育、学びの時間は大事だと思います。それが持続していかないと(その時、その学年の時だけでなく)、何も知らない何も気にしない大人がこれ以上、増えて困ると思います。同時に大人へも教育、学びの時間は同じように必要だと思います。
- 最近トレッキングを始めました。散策するたびに自然と触れ合ったり新しい発見等を楽しんでおります。北九州の自然や観光などの散策マップを住民票が取れるように、発行できたらいいなとか想像してます。(区ごとの要所や各所案内など)
- 私の認識不足かもしれないが市政だよりは毎回、読んでいるのに環境？自然に対するの記事が頭に残っていない。市政だよりでもっと明確且つ伝わりやすい特集をしたらどうでしょうか？
- 戸畑区東鞆ヶ谷のホテルの生息をうまく PR する工夫(イベントの開催)が必要と思われる。
- 小さい頃から言葉に触れておく機会があると、意識も変わると思う。未就園児のときは自然と触れ合うことが好きだし興味もあるので、そこを対象にイベントなどがあると親子で参加できて意識が高まると思う。
- 小学生や幼稚園児など、小さい頃からそういう知識や体験をより多くすることが一番重要だと思います。
- 子どもたちが外で遊ぶことが減っていて、外で何をして遊べばいいのかわからないことが多いので、子どもたちが自然の中でどんなことができるのかを知る機会があるといいな

と思います。

- ハザードマップをどこにでも手に入るようにしてほしい、分かりやすいように改善して欲しい。
- 特定の団体が行っているイメージで参加しにくいイメージです。もっと出張授業や長期休暇を利用してのイベント、地域の市民センターなどの活用をしてもいいと思います。
- 「環境隊」など、子どもが関わると関心も高まりそうですし、夏休みの自由研究などにも最適ではないかと思います。親子で(参加しやすい地区、学区など)楽しみながら学びたいです。
- 定期的に市政だよりにへ自然環境に関する取組みの詳細を掲載すると市民の関心が高まると思う。
- 自然環境の重要性は、幼少期から教育することが大切だと思いますので、小学校での講演や授業を定期的に実施したらいいと考えます。
- 自然環境を知り守るということについて、なかなか普段意識する事がない部分も多いですが、自然豊かな北九州を守るため、市で情報発信してくださると意識する事が出来ると思います。
- 若い人がもっと参加できる仕組みが出来ればと思う。

その他

- 恵まれた街。一人でも多くの人が意識をして大きく育てたいと思う。
- 当たり前前を当たり前に行うことは、現行の社会において難儀なことです。地道で永続的な活動基盤をどこに置くか、それは地域のコミュニティの他にないと考えます。様々な行動・取組み・意識形成を行政や企業・学校と一体的に、しかも安価に進める、継続する観点から地域活動を主軸にすることが一番だと思います。
- 都市近郊に手付かずの自然を残すことは、極めて難題だが、荒れ果てることを防ぐ以外は可能な限り、そのままの状態を残すことが大切です。失ったものは手に入らない。
- すごい勢い発展してきた工業地帯の北九州ですが、昔の汚れた海、川のイメージがありました。よみがえって住みやすい市としてきれいな川を見ると 60 年で今変わってきていると強く感じ、力をそそいできたと思っています。環境問題は長期的なスタンスでやり続けるしかない。何年後でこうありたいと願いをもってビジョンを組んでやって欲しいです。
- 前提として、自然や生物の多様性は人類の為にあるのではなく地球が生きる物であり、人類も他の生物と同様に地球に寄生している生物しかないと考えてます。恩恵を受けること自体は間違った事ではありませんが、都合のいいように自然環境や生態系を破壊してきた結果、危機感を覚えたからと言って罪滅ぼしをするかのように保全や改善の為に手を加えたとしても、それは自然ではなく人為的なものです。自然は人類が干渉しないと修復されない程弱くないと思います。寧ろ人類が干渉するから拗れてしまうのではないでしょ

うか。

- 本当に地球の事や自然環境、生態系を考えていくのであれば、人類は地球にとって悪玉菌である事を自覚し、目先の成果に惑わされず過度に干渉する事は避け、どのように他の生物と共生し、自然環境と調和していくかを考え、取り組んでいく事が重要だと思います。また、環境未来都市を謳う割には保全の先が見えてこない事が残念です。
- 自然環境単独で各種問題の解決はできないと思います。北九州市は高齢化が進む都市として、どのようなビジョンの都市を目指すのかをまず考える必要があります(ピンチをチャンスに変える観点重要)。その中で、将来に対する各種課題を総合的に考えましょう。例えば、高齢化で車の運転ができない人が増えてくるので、無料の交通体系(電気バスや自動運転乗り合いタクシーなど)を構築し、老人が安心して出かけて、町や観光地を活性化するようなことを想定し、自然豊かな町や観光地を構築することで、市民が誇れる町や自然をみんなで作り上げていきます。行政の率先した取組みが重要です。
- 自然がすぐ近くにある都市として存在感を発揮したいですね。
- 積極的に取り組んでほしい。
- 北九州市はかつて重工業の中心として発展したことから、大気、水質汚染が深刻でしたが、環境の浄化が進められました。その環境技術やノウハウを活かし、環境先都市として、アジア太平洋地域の環境問題に取り組んでおり、その長年の努力に敬意を表します。
- 当市も温暖化の影響により、気温の上昇や降水量の変化等々、様々な自然環境の変動に直面しています。今後も自然と人の共生を目指す都市として、自然環境の保護について、積極的に取り組むべく、宜しくお願いします。
- 自然が自然のままでは自然は失われてしまいます。適度な人間の介在により適切な環境が保たれます。その適度を超えてしまっている事業が多々あります。代表的なのは曾根干潟での道路建設です。あの工事に伴い、どれだけの野鳥等生物が渡来しなくなったのかを知ってほしいです。あれこそがまさに環境破壊です。適度、という言葉を噛みしめていただき環境保全に努めていただきたいです。IT、製造、そして自然と全てが一体になった素晴らしい街北九州を創造していただきたいです。
- 生物多様性や自然環境保全について、自分自身が無知であることに気付かされました。もう少し北九州市の自然に目を向けてみようと思います。
- 今回のアンケートで自分が自然環境への取組知識の無さを実感し反省して学ばなければと思いました。気付かせて頂き、ありがとうございます。
- 北九州市は自然が多い方だと思うので、このままこの自然を大切にしていけたらいいと思う。

IV 全体考察

本市は、豊かな自然環境を将来にわたって守り、市民と自然のふれあいを推進することなどを目的として、平成17年度に「北九州市自然環境保全基本計画」を策定。平成22年度には、この基本計画の改訂として「北九州市生物多様性戦略」を策定し、生物多様性の確保に向けた様々な取組を進めてきた。

現在は、平成27年度に策定した「第2次北九州市生物多様性戦略」のもと、「都市と自然との共生 ～豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち～」の基本理念を実現するため、様々な取組を進めているところである。

本アンケートは、令和4年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)や、令和5年3月に策定された新国家戦略の内容を踏まえ、令和6年度で計画終了となる「第2次北九州市生物多様性戦略」の改訂に向けて、北九州市の自然環境に対する意識、環境保全活動への意向などについて調査し、次期生物多様性地域戦略立案の参考とするために実施したものである。

1 北九州市の自然環境

北九州市の自然について、思い浮かべる場所では、全体では「平尾台(85.6%)」が最も多く、幅広い世代に渡って認識されている。また、自由記入では、緑地や公園を挙げる人も多く、水辺の空間や環境(河川、海、貯水池など)にも自然を感じている。なお、思い浮かべる生き物では、「ホタル(69.1%)」や「野鳥(51.1%)」が多かった。その他、北九州市の自然として思い浮かべるものの自由記入では、気候や空気、川を流れる水、歴史・文化・風土、食べ物や特産品の回答もたくさんあり、自然環境と生活のつながりを認識していると考えられる。

2 生物多様性と保全

「生物多様性」の言葉と意味については 69.8%が言葉を知っているが、意味についても知っているという回答した人は 30.0%に満たなかった。生物多様性の重要性の認識については、50 歳代～70 歳代以上で 80.0%以上の方が意識できているが、40 歳代は 60.0%と最も低い結果であった。また、生物多様性の重要性をどのように知ったかという質問では「テレビ(70.9%)」と回答した人が最も多かったが、一方で「環境省 HP(18.2%)」、「本市 HP(14.5%)」から知ったという回答は少なかった。生物多様性の保全のために日常的に気をつけていることは、全体では、「節電や節水、アイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む(68.3%)」と回答した人が最も多かった。年代別では、20 歳代以下の方が「生きものを最後まで責任を持って飼育する

(53.3%)」、「環境に配慮されたマークのある食品・商品を意識して選ぶ(46.7%)」、「環境に配慮した農林水産物、食品を選ぶ(40.0%)」と市民目線でわかりやすいことが行動しやすい傾向があった。また、70 歳代以上の方が他の世代より、多くの行動に積極的に取り組まれている様子もうかがえた。一方、生物多様性の保全につながる行動では、「行っていない(71.9%)」という回答が最も多く、また、団体活動に参加するよりも個人的な活動を選択する結果となった。

3 第2次北九州市生物多様性戦略

第2次北九州市生物多様性戦略については、「知らない(93.5%)」の回答が多く、認知度が低いことが分かった。「知っている(6.5%)」と回答した人は全員、その内容についてもある程度知っていると回答している。また、本市生物多様性戦略の進行管理等を行っている自然環境ネットワークの会については、「知らない(94.2%)」と回答した人が多く、市民の認知度は低いことがわかった。PR 不足、初めて知ったとの意見も多く、多くの市民に情報を届ける対策を検討する必要がある。

4 自然環境保全の取組

本市の自然環境保全の取組についても、「知らない(39.6%)」と回答した人が最も多い結果であったが、「平尾台ツアーやカブトガニ産卵観察ツアーなどの自然体感事業」を知っていると回答した人が 34.5%であり、市民参加型のイベントについては認知されていることが分かった。取組を知っている人は、「市政だより(69.0%)」や「テレビ(36.9%)」、「インターネット(20.2%)」などで情報を得ている。子どもの学校行事で知るといった意見もあり、人とのつながりで広がっていることも考えられる。

5 響灘ビオトープ

響灘ビオトープについて、「知っている」と回答した人が、全体では 56.8%、年代別では、70 歳代以上の方が 68.4%と最も多い回答となった。区別では、近隣の八幡西区や若松区の認知度が高いことも分かった。響灘ビオトープを知ったきっかけは、「テレビ(32.9%)」や「本市ホームページ(30.4%)」、「新聞(29.1%)」等のメディアであり、世代により知り得るメディアが異なる傾向もあった。また、「通勤で見ていた」、「釣りで近くを通る」など日常行動が知るきっかけにもなっていた。

響灘ビオトープを訪れたことがある人は、複数回訪れることもあり、世代により頻度は変わるが、70 歳代以上の方が多く訪れていることが分かった。響灘ビオトープを訪れたことがない理由では、行きたいという意識はあるが、その機会を得ていないようである。その他、公共交通機関での来園が不便との意見もあった。

6 希少生物の保護・保全及び特定外来生物

希少生物で最も知られているのは、「カブトガニ(70.5%)」で、次に「ズグロカモメ(16.5%)」であった。希少生物の保護・保全策については、「その種が生息する土地の適正な管理状況(81.3%)」が重要だと考えられている。

特定外来生物で最も知られているのは、「ヒアリ(69.1%)」で、「アメリカザリガニ(68.3%)」、「セアカゴケグモ(54.0%)」、「ウシガエル(48.9%)」の回答も多かった。その対策すべき理由については、「日本古来の在来種などの生態系の保全(88.5%)」と回答した人が最も多かった。特定外来生物については、指定種の種類により認知度の差はあったが、その対策について強い期待や要望を持っていることが伺える。種類の認知度を上げるためにも、特定外来生物に関する啓発を今後も進めていくことが必要と考えられる。

【市政モニターに関すること】

広報室広聴課 (TEL : 582-2527)

【アンケートに関すること】

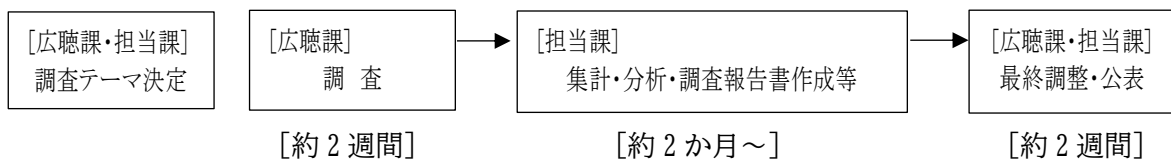
環境局環境監視課 (TEL : 582-2239)

市政モニター制度について

1. 市政モニター制度の概要

市の様々な施策を進めるうえで、満足度や実感などの市民の生の声を参考とするため、毎年、公募による18歳以上の市民150人に、市政モニターとして様々な分野のアンケートに協力していただいています（依頼期間 令和5年5月から令和6年3月）。

2. 市政モニター調査の作業工程について



3. 令和5年度 市政モニターアンケート調査 実施予定及び公表予定

回	実施時期	件名	担当課	回収率	公表予定
1	5月12日～5月26日	認知症支援・介護予防に関する意識調査	保健福祉局 認知症支援・介護予防センター	95.3%	8月
2	6月2日～6月16日	北九州市の観光振興について	産業経済局 観光課	92.7%	9月
3	6月30日～7月14日	生涯学習に関する意識調査	市民文化スポーツ局 生涯学習課	93.3%	10月
4	7月28日～8月11日	子ども食堂等の認知度調査	子ども家庭局 子育て支援課	96.0%	10月
5	8月18日～9月1日	モラル・マナーアップについて	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	94.6%	11月
6	9月15日～9月29日	暴力追放運動について	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	95.3%	12月
7	11月8日～11月22日	北九州市の生物多様性について	環境局 環境監視課	92.7%	2月
8	12月6日～12月20日	消防団について	消防局 消防団課	—	3月